

京古本や往来

土堀のほとり

杉本 秀太郎

私は昔、植物採集と蝶の採集に熱中していた。近所のお店にいつて、小遣い銭ではとても買えない図鑑類をこわい手にとることをくり返し、番台の老人にどなられたのを思い出す。小学校の六年のときに、鈴木梅太郎の「植物生理の研究」などという専門書をなけなしの小遣いで買った。大町文衛の「日本昆虫記」というのも同じ頃に買った本だ。この著者が大町桂月の息子ということを知ったのはずっと後年のことである。牧野富太郎の「趣味の植物採集」という本は、たしか誕生日か何かに祖母にねだって買ってもらった。

いま挙げた三冊は、本棚の隅っこにめぐまれぬ場所に、まだ失わずに持っている。牧野富太郎の随筆の文章は、いまの私には取るにも足りぬつまらぬものにみえるが、

「趣味の植物採集」が宇田川榕庵の「吾多尼阿経(ボタニカキョウ)」を全文振り仮名つきで収めているのはもうけものである。

昔の科学少年が、どういう次第で文学少年になり、長じては大学のフランス文学科を出ることになったのか。きつかけはいくつかりはないが、ここに書いてあるゆとりによってこれが旧制高等学校入学のさいごのチャンスという年、私は第四高等学校に入った。一年後には新制大学を受け直さなければならぬと決まっていたが、旧制高校生の生意気な、気分だった生活をとにかく一年でもやりたかった。そして金沢の香林坊や武蔵ヶ辻の古本屋をのぞき歩くようになったときから、古本漁りの習癖が身についた。翌年、新制度の京都大学

季刊 第29号 京都古書研究会 発行

〒604 京都市中京区
東洞院六角上ル
京都府古書籍商協同組合内
振替 京都 0-22132
年間購読料(送料込) 500円
頒価 150円

に入つて、ほとんど毎日のように寺町、河原町の古本屋をのぞくことになった。自宅が町のまんなかにあるので、暑い時は夕食後に下駄をひっかけた古本歩きをすることが多かった。

その頃、というのは昭和二十三年から数年間のことだが、寺町四條下ル、大雲院の門の庇を借りて、寺の土堀ぞいにさきやかな棚を設けている古本屋があった。西村という四十歳くらいの人が独りでやっていた。私は道順の都合で、その棚をひやかすことから古本屋歩きをはじめたのだ。伊東静雄の詩集「わがひとに与ふる哀歌」を見つけ、お金を工面するために家までとって返すうち、誰かに先を越され、切歯扼腕したのは、あの大雲院門前のことだった。

寺町四條上ルにあった奥村という古本屋には、フランス書が目当てでかならず入った。アラン、ヴァレリー、ジイドのほか、象徴派の詩集を何冊か、いつも代金の捻出に苦心しながら買った。あるとき、奥村の店頭に、三好達治の献呈した詩集が十数冊、一度に出た

ことがあった。すべて臼井喜之介あての献本だった。一冊だけ「一点鐘」を買ったのは、いまでも記憶に新しい。奥村書店はその後もつづいてしたが、いつしか喫茶店に商売替えしてしまった。

寺町小路東入ルところにいまも公衆便所があるが、あの横の、天性寺の土堀のほとりに、一時期、洋書ばかりを並べている露天の古本屋があった。復員者といった風態の人物がやっていたが、なかなか良い本があった。一八八六年、ヴェルレーヌの注付きで出たランボオの「イリュミナシオン」は珍本のうちに入るはずだが、これが無造作にござの上にころがっていた。大学の同級の友人と奪い合いになり、早く金策のついたほうが勝ちにしようということになり、負けました。

こういう思い出は際限がない。見つけた本を買い金にえらい苦労をしていた時代がなつかしい。

〈筆者紹介〉京都女子大学文学部教授。フランス文学者。昭和五十七年「洛中生活」(みずす書房)で日本エッセイスト・クラブ賞を、同年「文学演技」(筑摩書房)で文部省の芸術選奨を受ける。他に「回り道」(みずす書房)「西窓のあかり」(近代日本詩人選)伊東静雄「(共に筑摩書房)など著書多数。

—— 書中お見舞申し上げます ——— 京都古書研究会加盟店

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------|--------------------------|---------------------------|-----------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|------------------------------|-----------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------|---------------------------|------------------------------|
| 赤尾照文堂
京都市下町
電話二二二八八 | 石川本店
京都市下町
電話二二二八八 | 井上書店
京都市中京区
電話二二二八八 | キョウコ書店
京都市中京区
電話二二二八八 | 其々堂
京都市中京区
電話二二二八八 | 京極堂
京都市中京区
電話二二二八八 | 沢田書店
京都市中京区
電話二二二八八 | 三密堂書店
京都市中京区
電話二二二八八 | シルヴァン書店
京都市中京区
電話二二二八八 | (株)善書堂
京都市中京区
電話二二二八八 | 大竹書店
京都市中京区
電話二二二八八 | 竹岡書店
京都市中京区
電話二二二八八 | 谷方書店
京都市中京区
電話二二二八八 | 東山書店
京都市中京区
電話二二二八八 | 萩山書店
京都市中京区
電話二二二八八 | 福田書店
京都市中京区
電話二二二八八 | 藤井政堂
京都市中京区
電話二二二八八 | 文庫堂
京都市中京区
電話二二二八八 | 文庫堂
京都市中京区
電話二二二八八 | 八木書店古書部
京都市中京区
電話二二二八八 | 山崎書店
京都市中京区
電話二二二八八 | (株)臨川書店
京都市中京区
電話二二二八八 |
|---------------------------|--------------------------|---------------------------|-----------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------------|----------------------------|------------------------------|-----------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|------------------------------|---------------------------|------------------------------|

子どもの本を通して

戦争を考えた

京都家庭文庫地域文庫連絡会

前年度代表世話人 小林 治子

子ども文庫って、ご存じでしょうか。

現代の子どもの本を読まないといわれて久しいが、子どもの本は年々豊かになり、秀れたものが多数出版されている。しかし、子どもの成長に応じて次々と買ってもらえる家庭は限られているし、誰もが本と出合える場所として公共図書館があるが、すべての人の身近かに図書館があり、暮しに結びついていいるとはいえない状況である。

一日ももたてはくれない我子の成長に、本の世界の楽しさを知ってほしいと願う母親が、自主的に手作りではじめたミニ図書館が子ども文庫なのである。

京都では昭和三十五年に最初の子ども文庫の誕生をみるが、その後あまりふえることなく十年余りがすぎ、現在ある子ども文庫のほとんどは昭和四十七年以降にできたものである。子ども文庫がどんどんふえていく背景には、高度経済成長とそのゆきづまりという大きな社会変化があり、子ども達が街の空間からしめ出され、遊び場

を失くし、遊び仲間さえも失くしていく一方、子どもをくみものにするうわつらな文化（マンガ、テレビ、オモチャ）が利潤第一に氾濫してきたことがある。

こうした中で、主に母親が、いろいろなところで結びついた仲間と共に、さまざまな場所（自宅、町内や団地の集会所、教会やお寺、幼稚園や保育園、生協センター、銀行など）を使って、子どもの健全な成長と幸福を願って開いているのが子ども文庫である。

現在京都府下に約二〇〇、京都市内に約一〇〇の子ども文庫が活動している。そしてお互いの交流と学習、図書館の整備や本がほしいという要求を実現するための運動を三本柱に、昭和四十八年十一月に京都家庭文庫地域文庫連絡会（京庫連と称す）が結成され、現在までさまざまな取組みをしている。

現在の子ども文庫活動は子どもの本を中心に出版したといえ、多様なひろがりを見せている。子どもがかかっている多くの問題をみつめ、子どもの全生活を視野に

入れ、総合的に考えていくために地域の母親が模索する中で、子どもを本と出会うための活動——よみきかせ、ストーリーテリング、紙芝居、人形劇、パネルシアター——などは言うに及ばず、手づくり遊びや伝承遊び、料理教室、ハイキング、キャンプ、野外観察など、必要に迫られ、取組まざるを得ない状況である。このことは本を読む子は良い子であるという一面の概念を否定するものであり、子ども文庫は子どもに本を押しつけているという批判にこたえることになる。又現在各地の団体が取組んでいる子どもまつりの行事が、一日だけ子どもをお客様にしてサービスするということになりがちであるが、子ども文庫は基本的にちがうといえる。

大体毎週開いている文庫がほとんどであるから、一人の子どもの長い目で継続してみてもいい、その子を個としてみるところが学校とは大きなちがいであり、子ども全体のうちの我子という視点が家庭とはちがった広い視野となる。子ども文庫は子どもの内なる力、必ず大きく成長し、花開くであろう子どもの生命力を信じてひき出すためのさまざまな試みをしているのである。

こうして文庫の手伝いをしたり、我子といっしょに文庫を訪れている母親達は、まず家庭という閉鎖的な状況から解放され、地域で、

仲間の中で我子を育てていくという視点をもつ。そして子どもの本や子どもの文化について学習し、図書館や学校を通して社会を視つめていく中で自らが大きく成長していく。最初は子ども達に本の世界のたのしさを知ってほしいとはじめた子ども文庫が、そこにかかわる母親達が交流し、学習し、行政に自分達の要望を伝えていくという活動をする中で共に育ちあい、地域づくりの核となり、子どもの本や文化を創造していくという大



お母さんの読み聞かせに夢中の子どもたち

きなうねりを創り出しているのである。

昨年夏、「丸木位里丸木俊原爆の図展」が京都市美術館で開催されたが、これは賛同する個人や団体の市民運動により推進され、京庫連も団体として参加した。この展覧会をきっかけに、子どもの本にかかわっているものとして何が

できるか、何をすべきかと考えた結果、戦争をテーマにした子どもの本の点検活動をするようになった。

まず、どんな本があるか、基礎資料づくりをした結果、約七五〇冊確認され、（その後多くの追補があった）そのあまりにも多いこと、私達が読んでいない本が多いことに愕然とした。手分けして二十二文庫約一〇〇人の母親達が主に図書館から本を手に入れて読み、何度か話し合いをもち、その結果、子どもの身近かにおきたい本として四二〇冊余をリストアップした。「きみには関係ないことか——戦争を考えるための子どもの本」がそれである。

このリストは各紙で紹介されたため、全国から注文が殺到し、そのコメントから、子どもに戦争の悲慘さを教え、再び戦争をおこしてはならないという多くの人々の気持をひしひしと感じた。

京庫連としても一つのテーマを決めてこれだけ多くの人が本を読みあつた経験ははじめてであり、いくつかの図書館に足を運び、図書館サービスの実態を肌で知ったことも一つの成果であった。

子どもの親達が戦後世代となり、家庭で戦争が教えるにくくなっていること、戦争を社会科学として教えない学校教育など、親と教師の教育実践の貧しさを感ずる現在では、子ども達には物語やノン

フィクションなど子どもの本を通して戦争を知り、考えてほしい。そしてそのことによって生きる力を見出し、平和への行動にまで高めてほしいと切に思う。

しかし、私自身この読書運動を通じて一〇〇冊余りの本を読んできて、必ずしもすぐれた本ばかりではないと感じた。とはいえ、作品の質にかかわらず、戦争により万人がおちいった状況には胸がつかまり、これは戦争というもののものつ無差別な残忍性であるが、果してこのことだけで戦争を知らせて、伝えることになるであろうか。

この冊子をつくるにあたって、子ども達から感想文を募集したが、ある読書好きの女子中学生からの「戦争はだめ」と書けばいいんでしょ。題名を適当に入れておいて」という言葉は、今の大人に対する、そして子ども对本に対する痛烈な批判と考えられる。集った感想文の多くが、戦争はみじめです。残酷です。かわいそうでした。戦争はもういやです等という言葉でちりばめられているのを見て、

わかるように、戦争の悲惨さ、残酷さの域を出ない作品が多い。いくつかの作品にある問題点として次のことがある。

物が不足している戦争中の耐乏生活のみを強調して描いたもの。そこには現在の高度経済成長後の生活状況とのちがいをふまえずに描かれたものが多く、子どもに訴

える力は弱いのではないか。

戦争を何らかの形で体験したことにより描かれた作品には、よろしいものがあふれ、読者をどうしようもない世界に引きずりこむが、戦争というものの本質を見通した目が貫れていない限り、戦争を知らない人間にとつては本の中の世界にすぎないということにならないだろう。

戦争がひきおこした社会の歪みを修復しようとする個人の涙ぐましい努力を描いた作品がある。努力のすごさ、痛々しいまでの迫力にもかかわらず、読者にそれほど力をもたないのはなぜか、戦争をひきおこしたものに對する怒りが感じられないからではないか。

社会はしばしば大きな悪事を為し、その後始末をいつも個人の努力におしつけて知らん顔をしているものであるということに対して、憤りときめた目を持たない限り、常人にはできないことをした人という伝説をつくりあげるにすぎないのではないか。

又、敵が憎い、こんな目にあうのも敵のせいであるという域を出ない作品に至っては言語道断である。

これら問題点を含む作品に接して、戦争の本質から目をそらせ、戦争を天変地異、災害と同じレベルでうけとらせる危険を感じる。子ども達に、戦争を憎み、反戦への行動にまで高める力をつけることと逆の作用をするのではないかと恐れるのである。

子ども達に戦争を伝えるとはどういうことか、

一、戦争は人間がおこすものである。特定の人間の私利私欲のためにおきるものである。

一、どちらの国の人間も非常に悲惨な状況におちいり、決して憎みあつてはいないのに、殺しあわねばならないことになる。

一、この結果、どんな人間も残酷になりうる。人間性を失い、加害者になってしまう。

一、戦争が実際に起こる以前には

長い長い準備期がある。大多数の庶民が知らないうちに準備がすすめられているものである。

一、戦争は人間がおこすものであるから必ず人間の努力でとめることができる。

以上のことを作品から考えることができるように描いてほしい。幼児向きに絵本で描くことはかなり困難であるとは思うが期待したい。特に最後の項目について、子ども達には未来への明るい希望と、人間に対する信頼をもつてほしいと願うものである。

どんな作品も戦争のある局面を切り開いて描くものであるから、子ども達にはそのためにも多くの本を読んではほしいと願いつつ、このことを十分考慮に入れつつも、一つの作品に右記のこと——戦争の本質を描いてほしいということ——を頼わずにはいられない。

いつかき道を歩かないために、子ども達一人一人が社会を見通す目をもち、考える力をつけてほしい、そのためにすぐれた本がたくさんあらわれてほしいと切に願う。

この取組みを通じて、子ども達の身近かにすぐれた本が必ずしもおかれているのではない状況というものを知った。

例えば出版状況、書店状況である。私達はリストに絶版のものも収録したが、これは図書館にい

ば読むことができるということ、出版社に対する再版要求をも意味する。又特別な本——課題図書など——でない限り、出版されて二ヶ月位しか書店でみることはできないということもある。

次に小学校中学校の国語教科書であるが、今回多くのすぐれた戦争児童文学の短編に出会うことができ、教科書に収録してほしいと思った。母親の立場から、こんな作品を是非教科書にと提案していくことも今後の課題であると思つた。

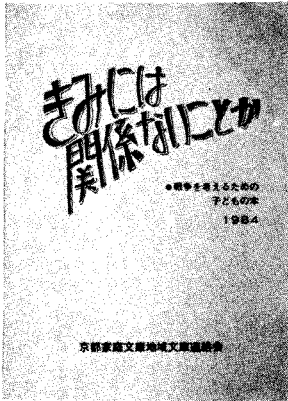
公共図書館の対応についても今回、いくつかの問題点を感じた。

まず、図書館として毎夏、戦争をテーマにした本を展示している館、その目録をつくっている館、簡単な紹介文をつけて子ども達に読んでほしいという姿勢を示している館などがあつた。公共図書館としては当然の任務であろう。

一方、基礎資料をつくるために館所蔵の戦争をテーマにした子どもの本のリストをお願いしたが、出せない館もあった。

私達が読みあうために図書館に借りにいったが貸出し規定の範囲では不十分なため、冊数制限、期間制限をはずして貸して頂いた館があつた。しかし、規定期間中に読みきれなかったため、継続をおねがいといったがだめだった館もあった。

「原爆の図展」会期中に協賛活動



解題付で 420 冊余が掲載されている

「戦争を考えるための子どもの本」目録

お問合せ先：〒606 京都市左京区
南禅寺下河原町1 小林治子

私の美術書誌(三)

中山 善次

として、京庫連は戦争をテーマにした子ども本の展示を京都都会館別館で行った。展示するために図書館に本を貸してほしいと依頼したところ、

一、図書館の本は読むためにある。

展示用にあるのではない。

二、展示用に貸出している期間中にその本を読みたい人が来た場合、現在某所で展示していただきますとは図書館としていえない。

といわれた館があった。

私達はこの展示活動を通して、より多くの人にいい本を紹介したい。いい本を手にとってもらいたい。そして図書館を利用してもらいたいと思ったわけであるが、理解して頂けなかった。この活動は図書館サービスと重なるものであって決して相反するものではないと思うのだが。

更に私達の希望としては、このように戦争をテーマにした子ども本をリストアップし、読みあい、話しあい、紹介リストをつくる一連の取組みに關して、図書館職員の方と共同してすすめたいと考えていたが今回果せなかった。図書館との真の意味の協力事業としての一つの試みであると考えたが時期尚早だったようである。図書館と子ども文庫という共通した目標をもつものとして、今後ぜひ共同して取組みをしたいものと考えている。

田島志一とその周辺

一、芸海社

田島氏が創立しほぼ八年ばかりの短い期間に驚異的發展をとげ、日本の代表的な大美術書出版社にまで仕上げた審美書院だが、彼はそこを去ったことについては前回に書いた。田島氏は書院を去った後、日本紙器製造株式会社を設立しその代表者になっている。又同じ年大正元年「本業の傍らの仕事」として、美術書出版版目録「藝海社」なる社を設立しその主幹になった。十数年に渉る美術書出版活動に未練があったことは確かだ。

藝海社の初めての出版「群芳清玩」第一集は大正元年十一月に出た。

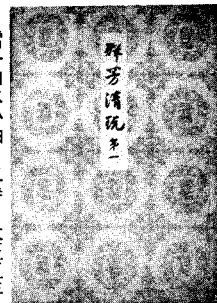
この書物の巻頭言に主幹が言葉を掲げている。曰く、「明治三十一年始めて真美協会を起して真美大観を発行し次いで審美書院を創立して以て美術書出版に従事す、余昨秋(明治四十四年秋)故ありて審美書院を去り専ら工業方面に執筆しつ、ありと雖も……本務の傍ら藝海社を起しその最初の事業として茲に本書を刊行す。群芳清玩第一集の明記によると、藝海社主幹田島志一、主筆編集相見香雨

となつてゐる。相見氏は、審美書院が明治三十六年光琳派画集全五巻を出版する頃から書院で編集、作品解説に参画した。田島氏とのつながりは古く、盛況を極めた頃の書院の仕事に關係を持つたことは、氏の中、近世絵画研究上、大きな收穫だったに違いない。相見氏の執筆活動は明治三十年代から、昭和四十五年六月廿八日九十七歳で世を辞すまで甚大な論文を発表してこられた。殊に中国宋元の流れをくむ、日本の室町水墨画、江戸期の琳派研究には、先駆的業績を残していることは美術史界に定評がある。相見香雨集なる著作集五巻を九州大学中野三敏氏等によって著々編集が進み先程この第一巻が出版された。日進月歩の美術史界ではあるが、一個人が打込んだ長い研究生活の記録を今こそ見直す必要があろう。

藝海社の出版圖書

群芳清玩 一―五 大正元―三年
大正元年十一月から同三年四月までに五冊発行した。各冊は初めに中国宋元画を載せ日本水墨画に及んでいる。国版二十図に説明を附けている。六集以下は他社に移り

大正七年から出版再開、同十年までに全十集完結した。途中四年ばかり出版のとぎれなどあつて十集完全本は少ない。



雪舟山水小軸 二巻 大正五年
この小軸、昔截断されたらしい。極短い巻物、長谷川等伯写しを一卷添へている。原寸複製

浅野侯爵家宝繪譜

大正六年

図版五〇解説五〇頁を附けて一冊、図録巻頭に田島志一が長い序文を掲げ出版事情を説明している。

「美術書出版を手がけて十年ばかり真美大観その他十餘種八十餘冊この材料二千数百点帝室御物初め古社寺、華族、富豪の私有の優秀なものは殆んど撮影収録した。浅野家の什宝は自分が書院に在る間に撮影の許諾を得られなかった」と唯一の心残りを述べ「今公刊するに至れるは美術書出版事業に於ける画龍点睛の完きを得た」など

積年の思いが解決しその成功をちかに表はしている。美術書出版に於ける自分の任務は是で了つた、これで安心感を持った、もう出版界と絶縁してもいい残すことは無いと思つたに違いない。この書物の完成後彼は美術書出版と完全に

絶縁した。

雲州余彩 二冊 大正十一年

島根県内に散在する、中国画、日本画を収録、松平不味旧蔵品が多く含まれ優品が多い。相見香雨編集解説、藝海社はこの後出版はない。

二、精藝出版合資会社

和田幹男が創立した。和田氏は審美書院の株主の一人だった。田島氏が書院を去ったあと、書院の代表者になつてゐた。前記の藝海社が出版した群芳清玩十集出版予定が五集まで出来て大正四年以来出版が中絶していた。この継続を引受けたのが和田氏で、精藝出版合資会社の仕事始めの出版物となつた。出版活動はほぼ五年の短いものだった。父和田維四郎が集めたものを材料として数点出版している。和田維四郎は福井県小浜市雲浜村出身の工学博士、出身地名にちなみ雲村と号した。好書家で古版本を集めた。大正五年に自家出版江戸物語、嵯峨本考、次いで、訪書余録六冊を著し日本書誌学界の先駆者であることは遍く知られている。精藝出版社は、審美書院に次いで好書の出版を期待されたのであるが、大正十二年九月一日の大震災に遭い大きな打撃を受けて再起出来なかつたのは惜しまれる。

出版物

群芳清玩 六集至十集

大正六十年

第六集を出した時、第一集―五集の再版を出した。編集解説は総て相見香雨執筆

浅野侯爵家宝絵譜 大正七年再版

訪書余録 六冊 大正七年

和田雲村著、書誌学史上まとまつた著述の早期出版物、この書物を著述するに当り、多くの字者の協力があつた。五山文学の上村観光、京大教授で図書館長の新村出先生など、殊に新村先生の協力が大きかつたと思う。先生が米を入れた校正刷を見たことがある。

絶代至宝帖 一冊 大正八年

国立博物館で仏画特別展の記念出版。大判図録、大村西崖解説。藤藤原時代を主とした、仏教絵画の優秀な図録。

彩色美津朝 一冊 大正八年

鳥居清長三十一歳の作品、天明七年西村永寿堂の出版、木版極彩色七図、良い出来の複製本折帖立立。

扇の草低 一冊 大正八年

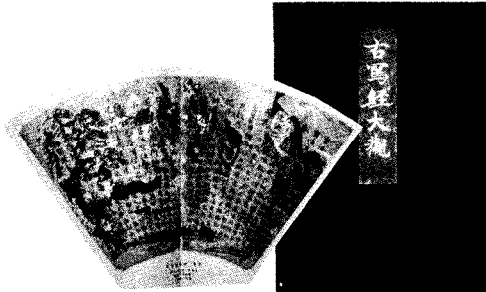
光悦筆の複製本、木版刷り二十枚料紙が色変りになっている。本物そのまゝの出来。

三十六人集抄 一帖 大正九年

有名な西本願寺本、複製は田中親美の援助を得て、川面来山が完成させた。木版色摺五十葉、三十六人集各帖から、文様の見事なものを選び出した。佐々木信綱博士の解説がついている。

古写経大観 一冊 大正九年

総説黒板勝美、解説中川忠順、妻木直良。奈良朝の寫經平安時代の装飾経を収録、色摺三葉、コロタイプ白二十頁、解説六十五頁からなっている。料紙は雁皮、紫地の絹の表紙に大和綴、挿入された三葉の木版色摺は絶品、ぜいたくな造りの本。



東洋美術研究
仏教美術資料 一、二、三期

大正十年

編集に福井利吉郎、田中豊蔵、上野直昭、矢代幸雄当時の権威四氏が加わった。有名寺院に伝はる奈良朝、平安時代の仏画と彫刻を半切の特大図版三百六十枚、細部写真を原寸図版としてしている。絵一五八図、彫刻二〇二図、図に解説をつけることに決つてしたが、出来

ずじまいだった。

光悦本譜本 六冊 大正十年

この本の原本は、料紙は極厚い紙、表紙内容共に雲母刷文様がある。

綴じ糸は赤、第一種と称する上本からの複製、百番百冊を出版する予定。完成後は光悦が配りものに用いたのと同じ桐箱を作り実費で分つと募集趣意書に記している。実際に曲目は、高砂、記松、邯鄲、矢卓鳴、白楽天、那には、の六冊だけ、此計画は、大震災の打撃を受け出版止む。

餓鬼草紙 一巻 大正十年
原本は岡山の曹源寺に蔵されていた。複製は巻中二ヶ所色摺にしている。鎌倉初期作の優秀な絵巻の一つ。原寸。

柳宮墨宝 一冊 大正十二年
徳川家に伝はる、墨蹟、宋元画、室町水墨画など、相見香雨氏の解説。

国華社、審美書院の仕事を通して、ここまで見てくると、日本に現存する大半の有名品が紹介されている。しかしまだまだ多くが残されていることは事実で、大正期から昭和にかけて、複製事業が盛んになった関係で、美術方面のみを見ても、大和絵巻物の複製に於ける七条憲三の技術、尊経閣所蔵品の複製者大塚稔、聚楽社を創設してほぼ二十年間美術書出版に活躍した秋葉啓の事業、京都便利堂の複製事業と永年に渉る美術図書の印

刷出版など刮目すべきものがある。

この方面の諸事業者は日本文化宣揚の立役者であり、貴重な存在だ。

このあたりを紹介する前に、今一人、田島志一氏が事業を開くに当り迎へた、強力な編集解説者となつた、大村西崖教授の仕事に記すことにする。大村先生は、東京美術学校の教官、東洋美術史上に於ける著名な学者で著書は多い。先生の編著諸書は、営利出版社から出してはいない。自家出版で出された。

三、仏書刊行会図像部
御室版高尾曼茶羅集 廿三冊 大正二年
三本両部曼茶羅 一冊

御室版高尾曼茶羅集は明治三年御室仁和寺版がある。足はその複製本。
三十帖冊子 三十冊 大正四年
仁和寺蔵、橘逸勢や弘法大師の書が見える著名な冊子、審美書院が印刷した。

支那美術史影編 三冊
先生の主著の一つ。図版は上下二帙入四三四枚九七八図、解説六六〇頁一冊、中国の殷周の古い時代から清朝に至る上下五千年間の金石、古明器などあらゆる古物の標本として確かなものを集めている、古物の鑑定などには座右に無くてもはならぬ好著。その昔、中国の物を見たり、扱った人々は皆この本

を見た、大正九年再版された。再版本は図版を一帙にしている。

仏教図像集古十八巻 大正六年
別尊雜記五巻、胎藏図像二巻、淨瑠璃寺吉祥天厨子絵一巻、戒壇院扉絵一巻、五部心観一巻、胎藏法諸尊形像二巻等他、十年近い長期の出版だった。

密教發達志 五冊 大正八年
本書で帝國学士院賞を受与された。

四、丹青社、文玩荘
丹青社、文玩荘共先生の居住地で出版された。

雙賢画法冊 一冊 大正十年
清の襲半千描く画法書、あとに自筆の説明を附けている。昭和三年再版した。

文人画選 十七冊 大正十年
中国の主として明清画を多く取り入れ、日本の江戸時代の文人画家の作品、各冊二十冊、二期五冊出たあと出版されなかった。

この年大正十年秋先生は東京美術学校を一時休職願ひを出し、三ヶ月支那旅行をされた。目的は支那画を多く見るためだった。記録に依ると、ガラス種板五十打を連んだこと、資料購入費として金一万二千元の大金を持って行かれたこと。現地では、故宮にある名画、北京、天津、上海の収蔵家を二十数軒歴訪して、千枚に近い撮影をしたなどが記されている。この時

(次ページ三段目につづく)

聞きがき

「昭和古本販売史」(三)

円本の波(後篇)

昭和始めの円本ブームの影響を現代の眼で推察すると、きつと次のようになるのではなからうか。

柳の下ドジョウを追って五年間に三百数十種も出版された円本に、さすがの読者も辟易し、出版社は在庫の山をかかえる。在庫はゾッキ本屋に超安値で買い叩かれて古本屋へ。一方出版史上始まって以来という大宣伝戦におどらされて(新刊書店には円本売り出しの赤暖簾や赤い幟がお稲荷さんのように林立し、街角では内容見本のパンフが乱舞したという——小学館「昭和の歴史」、読みませぬ全集をつぎつぎ買われた読者は、それを未練なく古本屋へ売り捌く。かくして古本屋の店頭には円本が溢れ、その相場は日に／＼下落の一途をたどり、どの古本屋も円本貧乏に追いやられていった。

ところが実際はどうであったのか。まず「日本古書通信」昭和二十八年十二月号に「本年の古本界を顧る」と題して掲載された神田の古書店主達の座談の一部を抄録してみよう。

三橋猛雄(明治堂書店)(略)

震災後の好景気が一応おさまって古本屋も落着いてきたというか、むしろ不景気になってきたというときにあの円本時代になったのですが、円本が出たからといってにわかには古本の売れ行きが少なくなつたというような直接の影響というものはなかつたと記憶しております。何といつてもそのころは一般の読書人に購買力があつたからです。

たとえば大学の先生など月給全部を本にかえちゃうという時代でしたから、一般的に不況といつても古本屋にはたいして影響はなかつたわけです(略)。

司会 あのところは生活が楽だつたわけですね。

三橋 そうです。ほかの物価に比べて古本屋の生計というようなもの、釣合つておりましたからね。

司会 出版界としては、企画とか経営の面で相当詰つた状態だつたんでしょうね。

三橋 ええ。その円本も成功したところもあるし、不成功のところもあるんですね。成功しないものは忽ちダンピングに出た

は明清の古刊書物を多く将来した。総ては自家に必要な藝術方面の書物、五十数点を記録している。

劉雲泉遺墨集 一冊 大正十二年

東洋美術史 一冊 大正十四年

東洋の美術史を専攻する人々に便利に出来ている本。古代中国から清代に至る及日本の美術と各時代を見てゆく。学生用に書いたこの本は名著の誉れ高く、再版も数回重ねた。

聖賢殘影 一冊 大正十五年

中国保聖寺の建築と彫刻集

文玩叢記 六冊 大正十五年

中国の古典藝術書を翻訳した本、董其昌の骨董十三説、明文寿承印史、宋米元章硯史、宋趙希鵠洞天

わけで、それがかえつて古本屋は潤つたんじゃないですかね。

ここでは円本ブームは古本界にとつてはむしろ好影響であつたように追憶されている。そこで京都で円本を新刊・古書共に商つた丸三書店店主長田寅雄氏に当時の模様を聞いてみた。氏は叔父木村五郎氏の経営する丸三書店に大正十五年奉公した。こは市電開通に伴つて京大や三高生の散策路として賑わいだした丸太町通りに大正五年新京極より進出し、鴨川西岸で学生向の新・古書を商つた。当時の丸太町通りのこの界限には進文堂、西川誠光堂、岡井書店、弘文堂、積文堂など主として教科書を扱う新・古兼業店が軒を並べて

清録集、清陳原心玉紀、宋王將明宣和傳古図撈説。

図本叢刊会 大正十二年至昭和初

中国明清間図本複製 四十三冊

複製本を列記すると、明林有麟素園石譜四、列僊酒牌、羅軒變古箋譜、熱河三十六景詩譜、方氏墨譜各一、集雅齋圖譜四、顧炳歷代名人画譜四、蕭尺木離騷圖二、芥子園画伝三、程氏墨苑二、劉向列女伝四、汪氏列女伝十六、以上十二点四十三冊が複製された。程氏墨苑、方氏墨譜、芥子園画伝の三種は未完のま、終つた。今一冊羅軒變古箋譜複製されたのは下巻だけの零冊。原本は天啓丙寅(一六二六年)顔繼祖序文ある上下二冊もの、日本

いたが、中でも木村五郎氏は昭和初期に京都古書組合の組長もつとめる有力者であり、長田氏は戦後この丸三書店を受継ぎ現在古書店として盛業中である。(丸太町の古書街については脇村義太郎著「東西書肆街考」——岩波書店——に詳しいので参照されたい)

昭和の初めの円本販売はすさまじかつたといわれていますが、京都ではどうでしたか。

長田 当時の丸三書店は店の丁度半分が新刊書、あと半分が古本でした。円本は相当売れたトラックではその頃まだ珍しかったトラックで配本して来たほどです。それを自転車で一刻も早く配達するという毎日でした。当時京大出入りの

に公私書日に著録なく、恐らく完本は日本にない。

先生逝去後出版された図録を次にあげる。

支那名画集 八冊 昭和廿一年

先生が中国で写真撮って来られた、主として明清絵画八百三点を収録した。昭和十九年「龍文書院」印刷発行、時に戦事中で、戦後早々売り出された。

明清山水名画集

王石谷名画集

沈石田名画集

右三種も同じ頃同様に売り出された。先生の著書は猶、多くあるが、その出版所に於て記していくつもりです。

書店はうちと日の出書店、丸善書店と向いの西川誠光堂でしたが、誠光堂は教科書を専門としておりましたので、前の三店がいつも納本の早さを競つておりました。余談ですが、京大農学部前に丸三書店の支店を設けたのも「農丸」と呼ばれ現在新刊書店となつていて、また本店の番頭松井為三郎氏が独立して百万辺に店を開いたのも、新刊が出れば他の書店より早く京大に納本するためであつたのです。

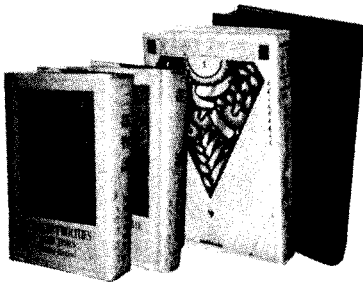
——どんな円本が人気ありましたか。

長田 何といつても改造社の「現代日本文学全集」と新潮社の「世界文学全集」が両雄でした。平凡

社の「現代大衆文学全集」は第一回配本が吉川英治の鳴門秘帖で、その宣伝のため大河内伝次郎主演の日活映画が岡崎公園の公会堂で催され、大人気でした。

何やら現代の角川商法ですね。ところでこれだけ新刊で売れたとなると、やがて円本は古本屋を席巻したわけですね。

長田 いや、そこが現在と違うところですよ。何しろ改造社の文学全集が8ポの三段組、新潮社の全集が二段組で一冊に単行本数冊分の小説が入っていて一円ですからそれはすごい値打ちがあったのです。そこで今まで経済的に本に縁遠かった人々にも自分の蔵書として本を買うことが出来たわけです。それに誰れも今のように読み終わったからとポイと古本屋に売り払うな



円本の両雄、新潮社「世界文学全集」(左二冊)と改造社「現代日本文学全集」(右上製、左並製)

なんてことはしませんでした。読書

以外の娯楽が少なかったと言え、それまでですが、廉価な円本と雖も大事にしていた。また円本が何十種類も出たと言いますが、どれも夫々異った内容で出されています。タイトルを見ただけでもわかるように文学全集でも、世界文学、日本文学、現代文学、大衆小説、長篇小説とどれもが重複しないように企画されています。

ですから極端に言えば円本全集をすべて買ってもいいわけです。現在のように同じ作家の同じ作品がどの社の全集にも収録されているということはごく少なかったのです。それに内容の質も相当高く、また文学の他にもあらゆる分野にわたって全集が出ております。一円という安価故内容まで安易と考えると大まちがいですね。円本の功罪を述べるなら功の方が大きかったと思いますよ。ともかく読者層が驚異的に拡大したことは日本の書物文化史上もつと特筆されてしかるべしです。

——それなら円本が古本で出てもよく売れたのですね。

長田 よく売れました。新刊は建前として全巻申込の予約出版でしたからバラ売りの古本は人気がありました。配本の順や内容によつて安いものが二・三〇銭、高いものは八〇銭、普通のもので五〇銭ぐらいで売りました。全集をコソコソと古本で揃えるというファン

も多かったですよ。

円本が読者層を開発したことにについては、児童書に於いてさらに顕著である。児童文学者菅忠道氏はその点について次のように語っている(「歴史文学」第三号汐文社昭和五十年)。

「日本児童文庫」と「小学生全集」という日本の児童出版史上で画期的な大シリーズが刊行されたのは昭和二年のことだが、その頃の子どもの本にとつて学校の教科書以外の本の出あいはどんなものであったろうか。まず日本中の多くの子どもたちの身のまわりには、雑誌のほかに子ども用の本がまるでなかった。講談社の雑誌「少年倶楽部」の発行部数は何十万といわれていたけれど、学級の中で毎月買っているような子はそんなにいなかった。一冊五十銭位の雑誌でさえそんなありさまなので、「本らしい本」つまり単行本としての子ども用の本を買ってもらえるなんて普通では考えられないことだった。(略)と

ころが「日本児童文庫」は四六判二五〇ページ前後で五〇銭、「小学生全集」は菊判二五〇ページ前後で三五銭というまったく月刊雑誌並みの廉価普及版であった。(略)月々一円ほどの出費をつづけるうちに、一三年の間に、わが家に堂々とした

子ども図書館ができる。そういう期待に親も子も心を弾ませたわけである。(略)こうして両全集とも二十万前後という日本の児童出版はじめて以来の大部分が全国的に流布したのであった。



児童書で北原白秋と菊地寛が火花を散らして覇を競ったアルス社「日本児童文庫」(左)と興文社「小学生全集」

一方、円本が出版部数の割に古本界に過剰な供給をもたらさなかった理由として前記座談会の中で

西塚定一(嚴南堂書店)外地には相当な部数が行っていたんじやないでしょうかね。樺太、台湾、琉球、朝鮮、満洲、中華民國あたりは国内で消化されるもの相当のパーセンテージが向うへ行っていることは事実でしょうね。割合に外地の人達は本を買いうけの財政は裕福ですから、一人で世界文学とか日本文学を三種も五種類もついでに

る家庭が相当あったんですから。それに大体外地にいる人は娯楽機関が割合にだけに、読書欲を相当もっていたんですね。と当時のマーケットの広さを語っている。ちなみに外地を失った戦後にはじめて出版された角川書店の大型企画「昭和文学全集」(昭和二十七年)が十五万部の発行が販売可能上限だったという。これは円本全集の発行部数の半分、四分の一ということになり、戦後の生活費の逼迫による書籍購読力の低下をさし引いても外地という市場がいかに大きかったかが知れよう。

こうして古本界における円本は、円本時代から戦時中まで儒給のバランスをさほど狂わすことなく流通したのであった。円本が安物古本の代名詞のように呼ばれ、古本買入に行つた古本屋が「こりや円本ですね、値が出ませんワ」と苦い顔をするようになったのは戦後ということになる。

しかしすべての円本が現在古書価のつかぬほどに没落したとはいえない。例えば当時ゾッキ本として処分の憂目にあつた、日本評論社の「明治文化全集」や、岩波書店の「内村鑑三全集」は戦後さらに巻を増やして再刊されたものもある。また全集全体では安価でもその中の一部の巻のみ評価されているものもある。例えば新光社の「日本地理風俗大系」の朝鮮・樺

古書研だより

大盛況の
第二回

「春の古本まつり」

— 入札コーナーの
スライド式本棚が大人気 —

太篇や台湾篇は新資料の不足や戦前の外地資料として現在見直されているし、第一書房の「近代劇全集」の舞台装置や改造社「経済学全集」の朝鮮経済篇などは戦前からキキ目として古書の人気がある。数年前新潮社「世界文学全集」の「失楽園」だけが突然値上りしたことがあった。ある女子大学の講義で使われたため古本屋へ問合せが殺到、たちまち高値を呼んだのであるが、閉講と共にアタ化に化した。

最近日本で人気なのは、講談社「落語全集」や平凡社「現代大衆文学全集」など最近の全集に収録されないことからの需要と思われるが、これらはまだ買ひ頃の古書値である。改造社の「現代日本文学」の最終巻の「文学年表」もけっこう便利なものであるし、前出のアルス「日本児童文学」はバラ売りなら店頭の一みに放り出されることが多いが、紋章篇や柳田國男の日本昔話集などは一人前の古書値がついている。

円本の誕生から半世紀以上たち内容に陳腐なものも多いが、昨今の新刊書よりよほど骨のあるものが多い。今一度円本を見なおし蔵書の一角に円本書館を置いてみるのはいかがなものか。値打ちが下ってきた「福沢諭吉」一枚で書棚があふれるなんて今どき痛快ではないか。

次回は昭和四年京都の新刊書組



史(左写真)は古本を通じて昭和の政治・世相をふりかえることが出来たと好評であった。

残部僅少「特選総合古書在庫目録」

今春四月に発行した古書研の連合目録「特選総合古書在庫目録」第三号はあと少し残部あり。送料経費(二百円・切手可)のみご負担いただければ送ります。

秋の古本まつり

日程決まる

恒例の百万辺の秋の「古本まつり」古本供養と青空古本市」の日程が決定した。詳しい内容は次号(十月十五日発行)及びパンフレットで紹介の予定です。

期日〓十一月一日(金)〜四日

(月・振替休日)

会場〓百万辺知恩寺境内

「画材ショー」併催

和洋
古書 美術書セー(八月三・四日)
京都市勸業館

京都画材商組合によって毎年開催されている洋画材料セールの「画材ショー」に本年も当研究会の大書堂、シルヴァン書房、山崎書店の三店が応援参加することになった。

会場に美術書コーナーを設け戦前の美術雑誌、資料、各種展覧会図録、グラフィックデザイン、テキスタイルデザイン、各種画集等を中心に和洋の美術古書、版画類の即売を行う。これほどまとまって美術書が即売されることは他に類を見ないものだけに、美術ファンには見逃せないチャンス。画材の買入れを兼ねてぜひご来場を。

期日〓八月三日(日)十二時〜四時
四日(日) 九時〜四時



昨年の美術書セー会場

会場〓京都市勸業館(岡崎公園内)
お問合せは前記三店へ

その他の即売会

〈京都近鉄百貨店〉

●第66回古書籍即売会

七月十八日(木)〜七月二十四日

(水・七階催場、目録発行)

お問合せ先〓京都古書組合(電話 075-221-0207)

編集後記

◎巻頭言は時節がら祇園まつりの地元杉本先生にお願いしたが、祇園まつりが地元からすっかり遊離した観光イベントになったことを嘆かれ、まつり以外の話題ならと筆を執つて下さった。

◎終戦記念にあわせて小林さんにと子どもたちに読ませる戦争の本について書いていただいたが、歴史を語る媒体として本の質にもっと鋭い目を持つべきことを教わった。

◎春の古本まつりの特別展示「昭和古本史」は担当の臨川書店の久保田君、文庫堂の飛田君の大奮闘のお陰で大成功。当誌の「聞き書き古本販売史」も負けじとねじりはちまき。

次号発行予定 十月十五日

電話(〇七五) 三六一一七六九五
振替 京都 一一一七九

〒600 京都市下京区七条通堀川角

1	ヴェーダーンタ哲学の発展	中村元	昭和56	八〇〇〇
2	初期ヴェーダーンタ哲学	中村元	昭和56	八〇〇〇
3	ブラフマースートラの哲学	中村元	昭和56	八〇〇〇
4	ことばの形而上学	中村元	昭和56	六〇〇〇
5	梵一英辞典	モニエル	昭和56	六〇〇〇
6	梵語文法	ホイットニー	昭和50	一五〇〇〇
7	梵語読本	ランマン	昭和48	七〇〇〇
8	原始浄土思想の研究	藤田宏達	昭和45	一〇〇〇〇
9	馬鳴の文学	金倉照	昭和44	一〇〇〇
10	敦煌の文学	金岡照光	昭和46	三〇〇〇
11	法華経大講座 全13冊	小林一郎	昭和11	四〇〇〇
12	本化聖典大辞林 全3冊	柴田・山田	昭和50	四、〇〇〇
13	日蓮宗聖典	田中智学	昭和3	五〇〇〇
14	法華経魂魄	清水谷恭順	昭和6	二、五〇〇
15	新釈観音経講話	井上恵日	昭和12	二〇〇〇
16	南無妙法蓮華経	望月歡厚	昭和6	二〇〇〇
17	日蓮宗学説史	望月日受	昭和49	二〇〇〇
18	御法門用語事典	望月信道編	昭和48	五〇〇〇
19	浄土宗聖典	林隆碩	昭和3	八〇〇〇
20	選択集講話	前田聰瑞	昭和16	三、五〇〇
21	半金色の聖者	椎尾升匡	昭和41	一、〇〇〇
22	極楽聖典	来馬琢道	昭和4	二〇〇〇
23	般若菩薩の説法	後藤光村編	昭和2	二〇〇〇
24	巴鑑国師	間宮英宗	昭和10	二〇〇〇
25	禅道俗話	市川文雄	昭和28	一、五〇〇
26	禅学示範	大内青巒	昭和10	四、五〇〇
27	円覚経講義	慈雲尊者遺稿	昭和43	五、〇〇〇
28	金剛経講解	暁鳥 敏	昭和4	二、五〇〇
29	人々の死	暁鳥 敏	昭和4	二、五〇〇
30	沈黙の自殺者	深浦正文	昭和12	二、五〇〇
31	親鸞聖人と浄土三部経	和 道実	昭和34	三、五〇〇
32	親鸞聖人をおもふ	稲村修道	昭和6	三、〇〇〇
33	巡礼歌の宗教		昭和4	三、〇〇〇

電話（〇七五）七〇一六六二七
振替 京都 九一六三八四

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
海外発展案内書	近代中近東事情	資料三池争議	滿洲開拓史	全体の読方教育	実業教育五十年史	欧米の女性	大思想家	世界戯曲史	現代日本文明史 全14冊	維新史 全6巻	木曾谷	三菱化成社史	日産自動車社史	日本自動車交通事業史	下請制工業	国土総合開発総覧 53年版	ウルフ・古代会計史	近代企業家の発生	集中生産と中小企業	戦後景気循環の研究	ミレー・経済学とイデオロギー	経済五十年	物権法	西村信雄教授還暦記念論文集	帝国主義論研究序説	英国労働政策史序説	大交史	島津製作所史	京都と共に四十年	京都市教育史・資料目録	戦後京都教育史年表	
日本海外移民協会	工藤正城監	三井鉱山株式会社編	同刊行会	山内才治	文部省	中根環堂	大橋勉次	同刊行会	維新史料編纂会編	東京経済新報社	同社	同社	岡村松郎	藤田敬三編	同研究協会	片岡義雄記	社会経済史学会編	兵庫産業研究所編	堀 新一	井汲卓一	時永淑沢	向坂逸郎	末川 博	立命館大	清水嘉治	大前朝郎	大阪交通労働組合	同社	京都中央信用金庫	市教育研究所	府教育研究所	
昭34	昭37	昭38	昭55	昭11	昭19	大5	昭4	昭5	昭18	昭28	昭29	昭56	昭50	昭28	昭18	昭31	昭38	昭24	昭39	昭31	昭44	昭25	昭28	昭35	昭40	昭43	昭42	昭43	昭44	昭48	昭49	
八、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、八〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	二、五〇〇	四、八〇〇	二、五〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇	二、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	

電話 (〇七五) 三二五一五六〇

〒604 京都市中京区壬生下溝町七―一
(仏光寺通西新道東入)

	1	懷徳堂文科学術講演集 加藤ゲンイチ	第一輯	大	二〇〇〇
	2	(超)明治聖徳記念会誌 超越者のすまい	文・會田 中島卯三郎編	昭和四十二	一、二〇〇
	3	皇城		昭和四十	一、二〇〇
	4	孝明天皇御事蹟紀	德重 淺吉	昭和三十	一、五〇〇
	5	明治詔勅全集	柴田 黃石編	昭和四十	一、五〇〇
	6	改訂増補 三体古事記	涉川 玄耳	昭和三十五	二、〇〇〇
	7	原典別記日本神代伝集成	泥谷良次郎編	昭和十三	二、〇〇〇
	8	日本神代史	中村 徳五郎	昭和八	二、五〇〇
	9	日本は神国なり	柳沢 秀人	昭和十六	一、五〇〇
	10	皇國史概説	高野 忠男	昭和十二	二、六〇〇
	11	皇國精神講話	算 克彦	昭和五	三、〇〇〇
	12	皇室新論	渡辺 幾治郎	昭和四	一、五〇〇
	13	心学道の話	奥田 寿太	昭和六	二、六〇〇
	14	こころの哲学 石門心学をめぐりて	磯辺 実	昭和十八	二、六〇〇
	15	憲法十七条序説	五十嵐 祐宏	昭和十八	二、〇〇〇
	16	十七憲法の思想史謹解上	井上 右近	昭和十八	一、二〇〇
	17	日本字序説	寺田 弥吉	昭和十七	一、五〇〇
	18	日本原理の実證的研究	総論 吉地昌一	昭和十六	二、〇〇〇
	19	日本精神の実現	池岡 直孝	昭和十	一、五〇〇
	20	武家時代文学に現れたる	野村 八良	昭和九	三、五〇〇
	21	国体新論	物集 高見	昭和八	二、五〇〇
	22	日本思想史研究 元本	村岡 典嗣	昭和十	二、〇〇〇
	23	国体觀念の史的 연구	河野 省三	昭和七	三、〇〇〇
	24	国学の本義	山田 孝雄	昭和七	一、〇〇〇
	25	日本思想史概説	田中 義能	昭和七	二、五〇〇
	26	近世日本思想史上	安津・小泉編	昭和七	一、〇〇〇
	27	校註葉隠	栗原荒野編	昭和五	二、〇〇〇
	28	葉隠の神髓	々	昭和五	二、〇〇〇
	29	葉隱百話	大木 雄二	昭和十九	二、〇〇〇
	30	国歌君が代の由来	小山作之助	昭和十六	二、五〇〇
	31	国史を貫く日本精神	井上 清純	昭和十七	二、〇〇〇

〒604 京都市中京区寺町通三条北

其 中 堂

電話(〇七五)二二二二九七八
振替 京都 二二二五三三八

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
聖地巡礼記(仏教大学講座)	日本民族と南方文化	国訳一切経 四分律	梵英辞典	正信偈歌異鈔講義	法衣史	提婆達多(カパー無)初版	陀羅尼字典	観音の札所と伝説	観音全集 十冊揃	密教大辞典 六冊揃	仏教説話文学全集 十二冊揃	仏教説話大系 第一期 二十冊揃	道元 人物叢書	道元 道元禪の本流	道元 道元小辞典	道元辞典	正法眼蔵随聞記	正法眼蔵随聞記	英訳正法眼蔵随聞記	校註正法眼蔵随聞記	道元 上下	正法眼蔵 正法眼蔵随聞記 日本古典文学大系	英訳正法眼蔵 英文 四冊揃	正法眼蔵序説	正法眼蔵註解新集	正法眼蔵釈意	正法眼蔵用語辞典	正法眼蔵全巻要解	正法眼蔵啓迪 三冊揃	本山版縮刷正法眼蔵	
高田 修	境野黄洋	アブチ	梅原真隆	井筒雅風	那 阿	清水谷善照	圓山達音	東林晴堂	今枝愛真	竹内道雄	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56	昭56
昭12	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55	昭55
二、三〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇

〒606 京都市左京区田中里ノ前町55

福 田 屋 書 店

電話(〇七五)七八一一三二六

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
子どもの館	時刻表 昭和28、9月(文通公社) 昭和25、10月(文交内社)	変態社会史(武藤) 変態人情史(井東)	珍具入門 中野栄三	拷問刑罰史 増補版 名和弓雄	ミノルヤマサキ建築作品集 淡交社	茶室 江森奈比古 海南書房	釣魚秘伝集 大橋青湖 渡辺書店	槍嶽乗鞍嶽近傍図 地方分限部 五色刷	ライカの画集 関西ライカ倶楽部	ウッドベリーの文学概論 禿徹 東学社	狂風記 上下 石川淳一 初版 美本	丸山薫詩集 昭南書房 カパー有	雲のいろいろ 与謝野晶子 教育図書 箱無	筑紫集 柳原白蓮 万里閣 箱無	京都新聞百年史	武藤貞一評論集 全三冊揃	大正昭和政治史の一断面 片岡直温	第八高等学校寮歌集 昭和十一年度	水泳法及水泳生理学 関正次	宇宙創成史 アレニウス 一戸直蔵訳	オランダ情調長崎の傍 玉野書文庫共 写本一枚	平城京朱雀大路発掘調査報告 奈良市	聖徳太子御憲法玄恵註抄 奥田正造編	海外神社史 上 小笠原省三編述	日本人の遺言状 桑田忠親	通俗絵入妖怪談 井上圓了	江戸時代高野山と切支丹の關係 京都文華堂	地球儀問答 塩津貫一郎	小学問答科書 京都府学務課編 和	京都府地理問答 家原政紀 半月堂 和	府県名問答 家原政紀 文華堂 和本	嬉遊笑覧 上下 喜多村信節 箱入
昭48	昭52	昭48	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41	昭41
各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇	各二、五〇〇

〒600 京都市下京区寺町通り五条上ル

藤 井 文 政 堂

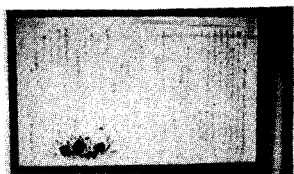
電話(〇七五)三五一一九三六三
振替 大阪 七一三二一五一

シヤム(現タイ)で「パトム・ソムポート」最勝の正覚の物語)29章が完成したのは一八四五年である。本図は当時の仏伝図の一部と思われる。灌頂・出家・乳糜供養の図。シヤム仏伝図(図中120×85)大図一幅 六五〇、〇〇〇円



蝶類図譜 彩色巻本

50,000円

狂歌寄合書 月岡雪鼎画 28×44
一卷 35,000円

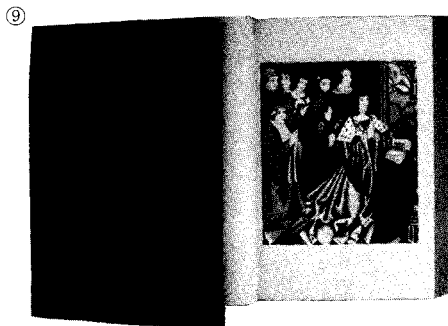
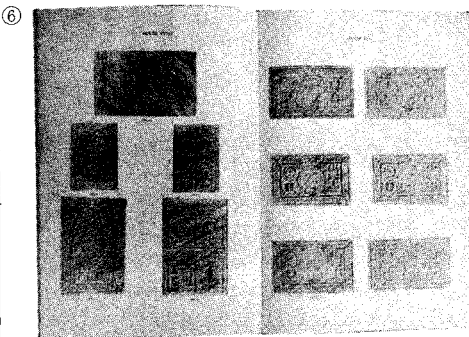
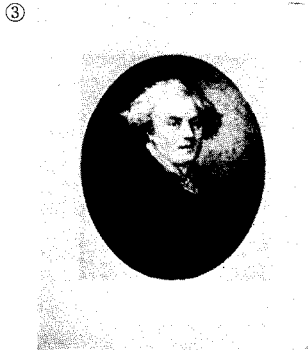
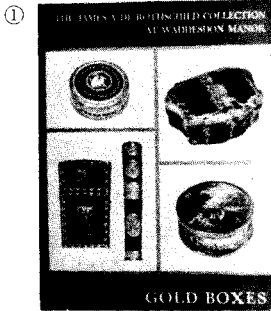
文 庫 堂

〒602 京都市上京区大宮通出水下る
家永町七六一電話(〇七五) 八一―一七二五九
振替 京都 二一四二五七九

33	新熊野観音寺一五〇年史	昭47	四、五〇〇
32	修学院史誌	昭43	一、五〇〇
31	丹波山国隊史	昭41	一、六〇〇
30	京都府伏見町誌	昭59	四、八〇〇
29	京都府伊都誌	昭59	五、八〇〇
28	乙訓郡誌	昭49	一、五〇〇
27	宇陀郡誌	昭49	一、五〇〇
26	京都名勝誌 付図共 少痛	昭3	三、〇〇〇
25	京都名勝誌 全3冊	明36	二、五〇〇
24	京都名勝誌 全3冊	明36	二、五〇〇
23	紙魚 1 3 8 10 11 12 6冊	昭15	四、〇〇〇
22	人形文化資料展覧会目録	昭24	六、五〇〇
21	世界出版美術史 小林善八	昭24	六、五〇〇
20	出版興亡五十年 小川菊松	昭28	五、〇〇〇
19	文芸春秋社三十年史稿	昭34	六、〇〇〇
18	中央公論社三十年史	昭30	五、〇〇〇
17	日本の蔵書印 小野則秋	昭29	七、五〇〇
16	光悦の謠本 高安六郎	昭32	一、五〇〇
15	絵本の研究 仲田勝之助	昭52	三、〇〇〇
14	南總文庫目録 大森金五郎蔵書	昭16	二、〇〇〇
13	貴重書解題 西村兼文編	昭15	五、〇〇〇
12	貴重書解題 大東忠記蔵書	昭31	二、〇〇〇
11	韓国私書解題辞典 高群逸枝	昭57	六、二〇〇
10	大日本人辞書 同刊行会編	昭12	三、〇〇〇
9	大日本人辞書 同刊行会編	昭12	三、〇〇〇
8	大日本人辞書 同刊行会編	昭12	三、〇〇〇
7	大日本人辞書 同刊行会編	昭12	三、〇〇〇
6	印刷読本 郡山幸男	昭17	八、〇〇〇
5	印刷読本 全6冊	昭17	八、〇〇〇
4	日本図書館史 小野則秋	昭55	三、〇〇〇
3	日本図書館史 小野則秋	昭55	三、〇〇〇
2	日本史関係雑誌文獻総覧 全2冊	昭59	三、〇〇〇
1	民俗学関係雑誌文獻総覧 竹田旦編	昭58	一、五〇〇

34	京都史話 魚澄惣五郎	昭11	九、〇〇〇
35	京都庶民生活史 他全4冊	昭48	四、五〇〇
36	京都古習志 宮座と講 井上頼寿	昭18	三、〇〇〇
37	西陣職における原形産業革命の展開	昭23	五、〇〇〇
38	西陣史 佐々木信三郎	昭7	一、八〇〇
39	京都西陣研究 本庄栄治郎	昭5	一、五〇〇
40	京都郷土芸能誌	昭28	二、五〇〇
41	北桑災害誌	昭29	二、〇〇〇
42	京都府風土誌	昭10	三、〇〇〇
43	京都府漁業の歴史 岩崎英精	昭29	二、〇〇〇
44	大野太夫誌 由良川 同編さん委員会	昭14	七、〇〇〇
45	琵琶湖疎水略誌 表紙汚 京都市電気局	昭54	四、五〇〇
46	京都府疎水史 総説編	昭52	三、五〇〇
47	浅山市長とその事蹟 夏秋義太郎編	昭13	九、五〇〇
48	岩倉公と京都 岩倉公旧蹟保存会	昭14	一、〇〇〇
49	岩倉公旧蹟保存会要誌	昭5	二、五〇〇
50	南近畿の物産 鉄道貨物協会天王寺支部	昭31	四、五〇〇
51	川島家と其事業 川島甚兵衛	昭6	二、〇〇〇
52	川島家と其事業 川島甚兵衛	昭6	二、〇〇〇
53	恩輝軒主人小伝 川島織物	昭39	二、〇〇〇
54	川島織物35年史	昭48	二、五〇〇
55	西陣織物同業組合沿革史	昭14	三、五〇〇
56	京都織物株式会社五十年史	昭47	四、〇〇〇
57	京都織物卸市場の概要	昭32	二、〇〇〇
58	家を出てから50年 大橋義一	昭34	五、〇〇〇
59	新装帯の店づくり 大橋義一	昭38	五、〇〇〇
60	今日只今拾年の歩み 大橋義一	昭43	一、五〇〇
61	帯屋五十年 岡本慶三	昭49	一、五〇〇
62	三十年のあゆみ 山口源	昭55	一、五〇〇
63	京都府工業連合会報 第11号	昭12	一、五〇〇
64	京都国立博物館六十年史	昭32	二、五〇〇
65	花の百年 藤井大丸百年史	昭45	一、五〇〇
66	大丸二百五十年史	昭42	一、五〇〇
67	京都地方貯金局沿革史	昭30	一、五〇〇
68	京銀連二十年史 市中銀行従業員組合連合会	昭53	一、五〇〇
69	京都新聞九十年史	昭44	一、五〇〇
70	京都商工会議所七十年史	昭27	一、〇〇〇

71	京都商工会議所史	昭19	二、〇〇〇
72	五十年史	昭10	二、〇〇〇
73	京都貿易戦後二十年 京都貿易協会	昭42	三、〇〇〇
74	京都府旅館業の実態 京都府立産業能率研究所	昭27	六、〇〇〇
75	京都帝国大学図書館案内 小冊	昭41	一、五〇〇
76	社会教育 京都府教育庁社会教育課	昭30	一、五〇〇
77	同志社九十年史	昭40	四、五〇〇
78	紫匂ふ比叡のみ山 京都府立産業能率研究所	昭47	六、〇〇〇
79	平安学園百年のあゆみ	昭52	二、五〇〇
80	上賀茂百年のあゆみ	昭48	二、五〇〇
81	東山学園百年史	昭18	一、五〇〇
82	同窓会名簿 京都市立第二工業学校同窓会	昭17	六、〇〇〇
83	京二父兄会名簿 赤線有	昭17	六、〇〇〇
84	さよなら京都市電 京都市交通局	昭53	四、五〇〇
85	京都市市電 立風書房	昭34	三、五〇〇
86	京阪神急行電鉄五十年史	昭35	二、〇〇〇
87	50年のあゆみ 近畿日本鉄道	昭52	九、五〇〇
88	京都民家譜 日本資料刊行会	昭52	一、四〇〇
89	京都府の民家 調査報告 第五七冊	昭52	一、四〇〇
90	近畿名園の鑑賞 重森三玲 京都印書館	昭21	二、五〇〇
91	近畿茶室行脚 岡田孝雄 晃文社	昭22	四、五〇〇
92	桂山荘 高桑義生 芸艸堂	昭30	五、〇〇〇
93	桂離宮制作過程の考察 和辻哲郎	昭30	五、〇〇〇
94	鹿苑	昭30	二、〇〇〇
95	京都の美術工芸 中丹編 京都府文化財保護基金	昭56	四、〇〇〇
96	京くみひも 全京都組紐連合会	昭53	二、〇〇〇
97	京焼百年の歩み 全2冊 藤岡幸二	昭37	二、〇〇〇
98	藤岡幸二追憶録	昭17	一、五〇〇
99	丹波焼と仁清 福中又次	昭17	一、五〇〇
100	京洛の古陶 蜷川第一	昭22	二、〇〇〇
101	陶寄	昭23	六、〇〇〇
102	乾山 京都篇 小林太市郎	昭44	四、〇〇〇
103	南座 堂本寒星 國	昭44	五、〇〇〇
104	畿内見物 京都の巻 中沢弘光監画入	昭44	一、〇〇〇
105	丹波栗栽培提要	昭15	二、五〇〇
106	きいやはん 大角安治郎監	昭54	四、五〇〇
107	京の石 見方と集め方 大内探石	昭39	一、〇〇〇
108	季刊銀花 創刊号より45号	昭44	五、〇〇〇



① sir プラント編。「ロスチャイルド蒐集：金細工箱と細密画」367頁 150図以上。
色図多シ、1.4to. スイス
¥25,000

② J.R. ヴァウラ著「ガラス5000年史」172頁+XXXV, 430図
L.4to. チエコ, アルチア版 ¥31,200

③ A P. ノルアック著「J.H. フラゴナール, 1732-1806」172頁62図
フォリオ パリ 1906 限定500部番号入 ¥90,000

B P. ノルアック著「J.M. ナティエ, 宮庭画家」164頁 70図
パリ 1905 限定425部番号入 ¥90,000

④ E. バイヤール著「婦人の美術：実用百科」148モチーフ図版
392頁 フォリオ パリ 1932 原裝 ¥60,000

⑤ E. ステップ, E. ワトソン共著「庭園と温室の人氣ある花々」
691頁, 312極彩色図版 s.4to. 背及び角革 ロンドン, N.Y.
1896 ¥100,000

⑥ J.B. オルダム著「英国装幀家のブラインドパネル」53頁文+67頁図版 フォリオ, 青布装
ケンブリッジ大印刷, 1958 ¥58,000

⑦ W.F. キルビー著「西欧の蝶と蛾」427頁, 61手彩色図版 L.4to. ロンドン, 1882 初版 背及び角革 ¥100,000

⑧ S. ビング序, 監修「C. Gillot の蒐集品売立目録」298頁 日本の重要美術品を主とする2122品
フォリオ, パリ, 1904 ¥75,000

⑨ H. ショウ著「中世の衣服と装飾」200図以上の極彩色石版と76図木版, 装革美本,
ロンドン 1843 C.P. 蔵書票付 ¥280,000

〒600

京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話(〇七五)三四一八七九三
振替 京都 一七九三三八

山崎書店

電話(〇七五)七一七四八
振替 京都 〇一八三六

〒606 京都市左京区田中大久保町22

- 1 ウキヨエ内史 全一冊の内第一巻 製本
2 浮世絵志 元版全三十二冊合本八芸艸堂 昭7 五、〇〇〇
3 浮世絵志 複製 全八巻 飯塚書房 昭56 三、〇〇〇
4 浮世絵の諸派 和装上下 原栄 金正堂 昭5 五、〇〇〇
5 浮世絵辞典 全三冊(上巻のみ出版) 吉田隆二 昭49 四、〇〇〇
6 初期浮世絵研究 京都美術青年会誌五 昭7 三、〇〇〇
7 浮世絵と版画 大野静方 大東出版 昭17 四、〇〇〇
8 末期浮世絵師 その異常作品群 鈴木仁一 昭46 五、〇〇〇
9 浮世絵 あぶな絵 全二冊 吉田隆二 昭46 三、〇〇〇
10 泰西名画家伝分売 日本美術学院 大10各、〇〇〇
11 レオナルド・ダ・ヴィンチ(木村莊八) 2、マネエ(石井柏亭) 3、ティントレット(渡辺吉治) 4、レムブランド(相良徳三) 5、コンスタンブル(石川欽一郎) 6、マネエ(石井柏亭) 7、ルノアール(田中嘉作) 8、セザンヌ(佐久間政二) 9、シャバンヌ(大隅為三) 10、ドガ(和田三造) 昭53 三、〇〇〇
12 クレー 造形思考 上下 新潮社 昭17 三、〇〇〇
13 無産階級の面家 ゲオルゲ・グロツス 昭4 六、〇〇〇
14 柳瀬正夢 鉄塔書院 昭15 六、〇〇〇
15 中国陶磁の時代的研究 興文閣書房 昭5 六、〇〇〇
16 恩賜京都博物館 大阪屋號書店 昭21 三、〇〇〇
17 日本書畫骨董大辞典 元版 背革装 大13 五、〇〇〇
18 池田常太郎 日本美術鑑賞会 大4 六、〇〇〇
19 日本書畫骨董大事典 復刻 全二冊歴史図書 昭54 六、〇〇〇
20 図説 古刀史 上下 加島進 雄山閣 昭58 五、〇〇〇
21 支那画観 木版画入 付日記隨筆 小杉未醒 アルス 大7 二、〇〇〇
22 仏像の起源 高田修 岩波書店 昭42 三、〇〇〇
23 唐招提寺新研究 南都七寺叢書二 昭15 三、〇〇〇
24 薬師寺の新研究 昭14 三、〇〇〇

- 24 法隆寺の新研究 南都七寺叢書八 昭13 三、〇〇〇
25 書院造の研究 藤原義一 高桐書院 昭21 八、〇〇〇
26 フランクローイド・ライト作品集一、二 昭2 六、〇〇〇
27 金剛杵閣学講義 全 松田霞城 芸艸堂 昭11 九、〇〇〇
28 解剖応用 人物画法 藤島武二 崇文堂 昭16 六、〇〇〇
29 シトラツツ 女大美術系 四冊(第一巻欠) 昭30 一、〇〇〇
30 画室の窓 堂本印象 朝日新聞社 昭21 二、〇〇〇
31 閑中忙人 鍋井克之 朝日新聞社 昭28 二、〇〇〇
32 油絵の実技 上下 石井柏亭 アトリエ社 昭18 二、〇〇〇
33 ゴッテルと日本美術 後藤未雄 北光書房 昭18 三、〇〇〇
34 織物雑考 中野虎男 田村文誠堂 昭2 四、〇〇〇
35 鳥居考 津村勇 内外出版 昭18 四、〇〇〇
36 稲垣家所蔵品入札目録 昭10 四、〇〇〇
37 雙軒庵美術集成図録(松本松蔵) 全三冊 昭8 八、〇〇〇
38 覚蔵滞支紀念画集 瀬野覚蔵 芸艸堂 昭11 一、〇〇〇
39 山崎朝雲昭和美術家百選(藤井右堂 美術日報社 昭14 一、〇〇〇
40 ゲーテ 色彩論 岩波文庫 昭27 八、〇〇〇
41 司馬江漢 成瀬不雄編 大阪美術商同組合青年会 昭58 三、〇〇〇
42 京都美術雑誌 創刊号(明23) 第5号(明25) 本版図多数入 谷口香嶺編 昭4 二、〇〇〇
43 一平全集 一、十 岡本一平 先進社 昭3 六、〇〇〇
44 現代漫画大観 全十巻 中央美術社 昭3 六、〇〇〇
45 私の図画教育 後藤福次郎 文教書院 昭4 四、〇〇〇
46 成郷画集 森本東閣編 東閣書房 昭4 八、〇〇〇
47 選美 第二集 栖鳳木版図入 大8 八、〇〇〇
48 支那南画大成 第二巻 蘭竹菊附 四君子 大10 五、〇〇〇
49 上村松園画集 上村松園編 講談社 昭47 二、〇〇〇
50 写真 棟房志功 写真七二〇 講談社 昭47 六、〇〇〇
51 サンドロ・ボッティチエリ アトリエ社 昭17 六、〇〇〇
52 受難 パツション ルーロ 岩波書店 昭50 三、〇〇〇
53 バウル・クレイ 限定 土方定一監修 求龍堂 昭45 三、〇〇〇
54 日本初期洋画史考 外山卯三郎 建設社 昭7 六、〇〇〇
55 美的復興 イタリア・ルネッサンスの芸術 青磁社 昭18 二、〇〇〇
56 劉生画集 木版画入 実篤編 平凡社 昭37 四、〇〇〇
57 国史大辞典挿絵及年表 彩色木版図多数入 明41 八、〇〇〇
58 近代画家論 ラスキン 全六冊 背革装 四方金 一、二、〇〇〇

予 告

美術書セール

画材ショー併催

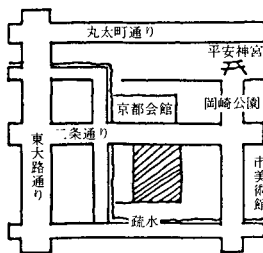
於京都市勧業館

八月三日(十二時—五時)

八月四日(九時—四時)

提供 大書堂、シルヴァン書房、山崎書店

毎年恒例の洋画材料セールに加え去年より始まりました、美術古書資料・洋美術書・版画・画集・雑誌など美術ファンに待望の他に類を見ない美術書即売会です。
是非一度ご来場下さい!



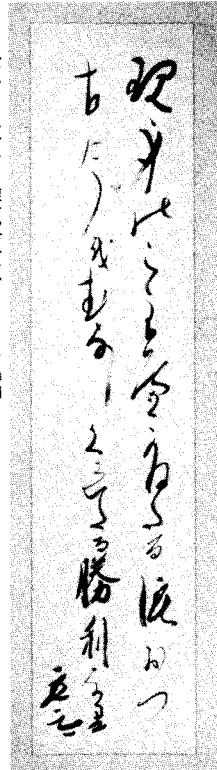
〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル

文藻堂

電話(〇七五)二三二―一九二四
振替 京都 八一六一―一五

1 吉植庄亮 歌幅 紙表装(紙本29×134浬)

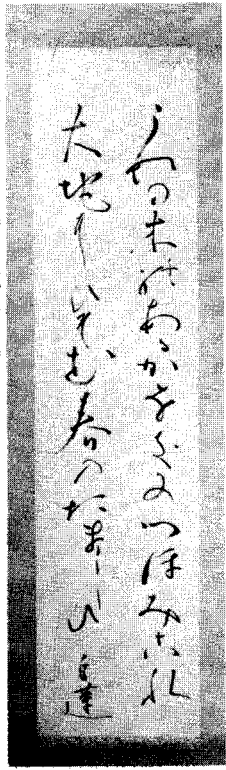
桐箱入 八〇,〇〇〇円



現身のこらへかねたる涙おつ古今をむなくしたる勝利なり

2 柳原白蓮 歌幅 絹三段装(絹本28×114浬)

入 桐箱入 一〇〇,〇〇〇円



うめの木のあるかなきかの書これ大地にひそむ春のたましひ

3 岡本かの子 短冊

五〇,〇〇〇円



ひとせのはてなるいひ梅月の野山は枯れてたゞに静けし

4 柳原白蓮 短冊

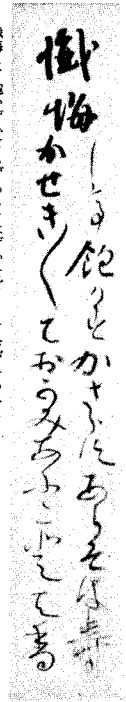
一八,〇〇〇円



天に幸人によろこび来たる也はるのやよひのあけはの、色

5 西田天香 短冊

四〇,〇〇〇円



懺悔して飽かずさらさらあらずかきくおのみあふくさるる

6 杉浦翠子 短冊

一五,〇〇〇円



こ、にみる信濃やまなみはてしらずいづべの山にわがよびかけむ

7 見原文月 短冊

八〇〇〇円



秋陽さす陣子をへだて、間近にすくなき水のおちる音する

8 青木月斗 短冊

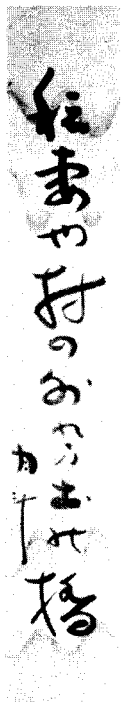
一五,〇〇〇円



蓬萊へ使の楽や海の上

9 青木月斗 短冊

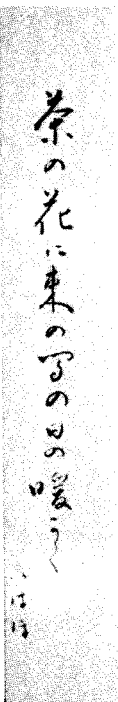
一五,〇〇〇円



稲妻や村の外れの土の横

10 松尾いはほ 短冊

五〇〇〇円



茶の花に束の間の日の暖かく

電話 (〇七五) 四九一—二三〇七

〒603 京都市北区小山下内河原町六三

72	新制中学新地図	外国之部	富山房編	昭和13	二,〇〇〇
73	改訂中等新地図	外国之部	富山房編	昭和12	二,〇〇〇
74	地理概説附地図	守屋荒美雄		昭和12	二,〇〇〇
75	四訂中等西洋歴史地図	村川堅固		昭和12	二,〇〇〇
76	改訂新選詳図世界之部	守屋荒美雄		昭和8	二,〇〇〇
77	満洲国地誌	富山房編		昭和11	二,〇〇〇
78	中等学校適用現代本国地図	王恩雄編	民国25	六,〇〇〇	
79	中国分省図	中華教育文化基金會 叢書編輯委員会	民国27	一,五〇〇	
80	四訂綱要日本地理	石橋五郎	昭和10	一,〇〇〇	
81	最新日本地図	新訂版 内田寛一	昭和8	二,〇〇〇	
82	新選詳図世界之部	守屋荒美雄	昭和7	二,〇〇〇	
83	新制帝國地図	山上万次郎	大6	六,〇〇〇	
84	新制最近日本地図改訂版	三省堂編	昭和9	二,〇〇〇	
85	中等新地図外国之部	富山房編	昭和10	二,〇〇〇	
86	中等新地図日本之部	富山房編	昭和9	二,〇〇〇	
87	中等新地図外国之部	富山房編	昭和10	二,〇〇〇	
88	新休日本歴史地図	富山房編	昭和11	二,〇〇〇	
89	標準世界地図	開成館編	大14	二,五〇〇	
90	模範日本地図新制版	石橋五郎監修	昭和2	二,〇〇〇	
91	正則世界地図	開成館編	昭和7	二,〇〇〇	
92	日本地図	田中啓爾	昭和13	二,〇〇〇	
93	中等新地図	日本之部 富山房編	昭和10	二,〇〇〇	
94	昭和日本地図	開成館編	昭和12	二,〇〇〇	
95	新選詳図	世界之部 守屋荒美雄	昭和6	二,〇〇〇	
96	新制中等新地図日本之部	富山房検定済	昭和13	二,〇〇〇	
97	昭和日本地図改訂版	開成館編	昭和12	二,〇〇〇	
98	創新日本地図	改訂版 開成館編	昭和9	二,〇〇〇	
99	日本地図	田中啓爾	昭和11	二,〇〇〇	
100	改訂新外国地図	下田礼佐	昭和8	二,〇〇〇	
101	本邦保育施設に関する調査	中央社会事業協会の社会事業部	昭和17	五,〇〇〇	
102	日本社会事業専門用語集				
103	保護少年	司法保護資料37号 司法大臣官房 保護課	昭和22	八,〇〇〇	
104	都市部落	その歴史と現状 部落問題研	大6	六,〇〇〇	
105	京都市の同和行政	同和問題研究資料	昭和54	二八,〇〇〇	
106	京都市の同和行政	京都市民生局同和対策室			
107	昭和20年代の同和行政	同和問題研究資料	昭和56	二五,〇〇〇	
108	終ける同和行政の概要	京都市民生局	昭和58	五,〇〇〇	

書 誌

国書総目録

岩波書店 揃9冊 昭39 150,000円

米澤善本の研究と解題

内田智雄編 昭33 60,000円

十七世紀 日蘭交渉史

高永教太譯 昭31 40,000円

日本英語学書志

荒木伊兵衛著 昭6 40,000円

きりしたん版の研究

天理図書館 昭48 80,000円

きりしたん版集成

天理図書館 7点揃 昭51 300,000円

佛 教

印度大乘佛教中心思想史

宇井伯壽述 昭9 46,000円

大乘起信論講義

高田道見著 大2 22,000円

大乘起信論の研究

望月信享著 大11 40,000円

阿含の佛教

赤沼智善著 大13 30,000円

民俗佛教と祖先信仰

竹田穂洲著 昭46 35,000円

永平寺史(上、下)

25,000円

碧巖集耳林抄 2冊揃

風外老師著 大4 25,000円

書 道

和漢書道史

桑田笹舟著 昭5 8,000円

書聖梧竹と書の鑑賞

海老塚四郎兵衛著 昭17 9,000円

書 鏡

藤原茂著 昭13 10,000円

尚亭先生書話集

手島右郷編 昭14 18,000円

書之理論及指導法

金子 賢著 昭11 10,000円

能筆自在 書法三角論

諸井春畦著 明45 7,000円

書及書法の真髓

前田春兎著 昭9 15,000円

(サービス品)

日本の蔵書印 (文友堂書店)

昭29 元版 5,000円

※部数に限りがありますので早くご注文下さい。

※他に書誌・佛教・書道関係書が多数、入荷していますのでご来店下さい。

株式 善 書 堂

京・上京区河原町今出川上ル
TEL 075-231-7711

31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1	法律・経済思想 一般書	京都市左京区浄土寺西田町八十一 電話(〇七五) 七六一四四五五四 振替 京都 五一四二六二二	マキャヴェリ 君主論 羽仁五郎 昭46 一、五〇〇	自由と国家の理念 南原 繁 昭35 二、五〇〇	基本的人権の研究 鈴木安蔵他 昭34 二、〇〇〇	ケルゼン 純粋法学 横田喜三郎譯 昭50 二、〇〇〇	法社会学の現代的課題 渡辺洋三他 昭48 二、〇〇〇	村明細帳の研究 野村兼太郎 昭53 二、五〇〇	シユナイター フアツシズム国家論 佐々弘雄他譯 昭14 六、〇〇〇	憲法論争(憲法重要問題の研究) 田畑忍 昭37 二、〇〇〇	ケルロイター ナチス・ドイツ憲法論 矢部貞治・田川博三譯 昭14 七、〇〇〇	統治行為論 山田準次郎 昭41 三、五〇〇	判例記録不動産競売実務総攬 水本信夫 昭29 三、〇〇〇	不動産登記法正解 三宅徳業 昭45 二、〇〇〇	入会権論 奈良正路 昭6 四、〇〇〇	日本社会と家族法 戸籍法をとおして山主 昭13 三、〇〇〇	判例身分法研究 青山道夫 昭38 三、〇〇〇	増訂版 判例物権法総論 柚木 馨・高木補 昭41 八、〇〇〇	戦争と民事訴訟法 齊藤秀夫 昭19 二、〇〇〇	増補版 仮処分の諸問題 吉川大二郎 昭43 二、〇〇〇	手形法・小切手法講座 全五冊 鈴木・大隅 昭44 二、〇〇〇	会社訴訟の理解と実際 鮫島真男 昭40 二、〇〇〇	全訂版 社会保障制度 清水金二郎 昭31 四、〇〇〇	保険学講義 佐渡宣平 昭33 二、〇〇〇	生命保険金融発達史 山中 宏 昭41 二、〇〇〇	海外に於ける協同組合の発達 背痛 辻誠 昭23 二、五〇〇	組合の自由 その国際的基準と日本 横田 博 昭54 二、五〇〇	契約法上 (総論) 末川 昇 昭33 八、〇〇〇	訴訟物論集 瀧川幸辰 昭7 三、五〇〇	刑法読本 福田平他 昭37 二、五〇〇	ヴェルツェ 目的行為論序説 (少破れ) 牧野英一 昭4 二、〇〇〇	刑法研究 ②	67 66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32	刑法における重点の変遷 罪刑法定主義と犯罪徴表説	牧野英一 昭23 二、五〇〇	久松義一 昭18 三、五〇〇	八木 肝 昭23 三、〇〇〇	黒田・牧野 昭9 三、〇〇〇	小野清一郎 昭12 四、〇〇〇	犯罪の時及び所 瀧川幸辰他譯 昭22 三、〇〇〇	オコンネル・ゾエデルマン 昭37 二、〇〇〇	犯罪捜査の科学 森田宗一 昭22 二、〇〇〇	少年問題と少年法 少年不良化の精神 岸本誠二郎 昭28 八、〇〇〇	フリードランダー 分析 孫田克躬 昭24 二、〇〇〇	労働協約と争議の法理 後藤 清 昭21 四、〇〇〇	労働組合と破防法 われら如何に対処すべきか 中村正雄 昭27 二、五〇〇	新労災保険法 村上海利 昭41 二、〇〇〇	労災補償の基本問題 桑原敬一 昭47 二、〇〇〇	労働災害保護制度 その創設経過 労働省 昭37 二、〇〇〇	労働管理の日本の特質と変遷 松島静雄 昭37 二、〇〇〇	国際私法の法典化に関する史的研究 川上 昭38 二、〇〇〇	国際連合憲章の研究 岡 義武編 昭24 二、〇〇〇	労災補償身体障害認定基準精義 岡 義武編 昭39 二、〇〇〇	現代日本の政治過程 吉富重夫 昭30 二、〇〇〇	政治的統一の理論 阿利莫一譯 昭43 二、〇〇〇	現代日本の政党と官僚 日本政治学会編 昭33 二、〇〇〇	ブラウ 現代社会の官僚政治 前島省三 昭40 二、〇〇〇	明治中末期の官僚政治 大久保譯 昭45 二、〇〇〇	シュミット 政治的ロマン主義 浜島 朗譯 昭32 二、〇〇〇	ウェーバー 権力と支配 東宮 隆譯 昭26 二、〇〇〇	ラッセル 権 力 淡 徳三郎 昭25 二、〇〇〇	人類・祖国・階級 高橋他 昭45 二、〇〇〇	ボーヴォワール 現代の反動思想 下村英時編 昭48 二、〇〇〇	日本労働法の形成過程と理論 塩尻公明 昭38 二、〇〇〇	天心とその書簡 中村 三 昭43 二、〇〇〇	民主主義の人間観 京都市商工局 昭37 二、〇〇〇	解放の教育と集団主義 その構造と実態
---	----------------	--	---------------------------	-------------------------	--------------------------	----------------------------	----------------------------	-------------------------	-----------------------------------	-------------------------------	--	-----------------------	------------------------------	-------------------------	--------------------	-------------------------------	------------------------	--------------------------------	-------------------------	-----------------------------	--------------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------	--------------------------	-------------------------------	---------------------------------	--------------------------	---------------------	---------------------	-----------------------------------	--------	---	-----------------------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------	--------------------------	------------------------	------------------------	-----------------------------------	----------------------------	---------------------------	--------------------------------------	-----------------------	--------------------------	-------------------------------	------------------------------	-------------------------------	---------------------------	--------------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------------	------------------------------	---------------------------	--------------------------------	-----------------------------	--------------------------	------------------------	---------------------------------	------------------------------	------------------------	---------------------------	--------------------

八木書店古書部

電話(〇七五) 八一—一三八九〇

〒604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

33	米国ロコモビル蒸気自動車目録写真12枚	明35	八〇〇〇
32	映画女優 五月信子 原稿紙一枚	明23	五〇〇〇
31	都名所87景 聖山肉筆87枚	明42	二〇〇〇
30	黒坂勝美繪巻ローマ 鈴木庸輔繪巻各一枚	明5	二〇〇〇
29	太宰府社之儀白々幸府神社ト被改候布令書	明8	二〇〇〇
28	神宮神号太字自今大字可相用事 布令書	明7	二〇〇〇
27	一ノ関ノ盛岡青森迄電信架線落成布令書	明3	二〇〇〇
26	七八条村西八条村東寺廻ニケ合併京布令書	明7	二〇〇〇
25	立花初心抄 奥付欠	延宝3	三〇〇〇
24	西宮太神宮福寿円満守護 お札一枚墨摺江戸末	延宝3	三〇〇〇
23	弘安書札礼 晴通郷本写 大虫入慶安2	延宝3	三〇〇〇
22	隆尊様(三井寺) 献立表一紙初破れ	文化7	一五〇〇
21	馬術目録 一卷 初破れ	文化7	一五〇〇
20	滋賀井入道書状一通同書に近衛家熙公即答	明11	三〇〇〇
19	一新講社伊勢参り定宿帖 木版旅館名帖	明27	三〇〇〇
18	一所委任状一紙武蔵国南豊島郡原宿村	明27	三〇〇〇
17	准后様御筆色紙一枚後京極歌きりくすなしや	明27	三〇〇〇
16	彦根藩士小浜平八郎筆書状一通国友宛茶人宗範へも	明27	三〇〇〇
15	大西椿年筆 山水画 一紙 めくり	明27	三〇〇〇
14	真宗御文洗誦口伝福乗寺随筆律師口授 嘉永4	明27	三〇〇〇
13	佐原文書一通 主君様今日ハ云々状 江戸初	明27	三〇〇〇
12	二条城御蔵人足差配人相統願書一通 文久元	明27	三〇〇〇
11	日本ト並墨利加合衆国郵便交換条約別冊一通	明27	三〇〇〇
10	菊園殿宛書状一通(井伊家)	明27	三〇〇〇
9	京都師工会議所会長浜岡光啓ノ陶磁器組合宛状	明19	三〇〇〇
8	社会黨員赤本勇西村関一正一中村高一後藤俊男各校	明19	三〇〇〇
7	弘法大師御書 如覚門額 輪額写 一紙	明19	三〇〇〇
6	古帯織屋仲間鑑札 一紙 縮写 文久3	明19	三〇〇〇
5	三本院蔵 金岡字 地蔵尊像 縮写 一紙	明19	三〇〇〇
4	銅版 八幡宮3字 筑前国箱崎宮蔵版	明15	三〇〇〇
3	大坂仕寄之図 兩軍合戦陣形図一紙	明15	三〇〇〇
2	茶人松尾宗五筆茶道具152両亮代金請取状 文久元	明15	三〇〇〇
1	徳川家光公筆無署名一紙懷中ノ百両童子に渡す	明15	三〇〇〇
34	石川千代松筆 原稿紙一枚	文政7	三〇〇〇
33	近江国大絵図 小傷有	文政7	三〇〇〇
32	中野実 原稿紙 掃還まへがき	未完	八〇〇〇
31	室生屋星 原稿紙一枚 黄色船	詩	五〇〇〇
30	武田豊四郎 原稿紙 十枚	五〇〇〇	
29	山辺習字 原稿紙 殺生未完	三〇〇〇	
28	太宰不二丸 原稿紙 12枚	三〇〇〇	
27	古今集 三木一草三鳥之伝	文政7	五〇〇〇
26	読書指針 No.33	昭24	二〇〇〇
25	鉄道線路之為田畑惣計取調書東東塩小路村	昭6	五〇〇〇
24	三奈洞院巖七郎兵衛萬釘金物所請取書一通	明初	二〇〇〇
23	吉野太夫筆花の香を雨吉野の雲かな 一紙	明初	二〇〇〇
22	武田玄伯書状一通 無事相動候	元禄7	八〇〇〇
21	空海御請来目録 高野山慶賀開版	正安4	五〇〇〇
20	林春雄隆原稿紙9枚 贅六百話 上方原稿	三〇〇〇	
19	鎌田春隆 原稿紙5枚 上方原稿	三〇〇〇	
18	曾根研二 京大三浦周行宛 書信八枚	三〇〇〇	
17	色紙五筆和歌公純有容公正信堅忠順各郷等筆	明18	五〇〇〇
16	葛野村中堂寺村 借用証 一通	明18	五〇〇〇
15	伊勢おかげ参り道中京より八枚奎通願人坊踊等	三〇〇〇	
14	室町通上立売上室町頭南半町代売渡申一札享和3	三〇〇〇	
13	天満宮御境内附四方通板近道之図一紙享和3	三〇〇〇	
12	大法炬陀羅尼經第9折帳 一冊写経	寛文8	三〇〇〇
11	今日庵淡々齋宗室筆行之行台子伝授状一紙	昭13	八〇〇〇
10	家屋敷相譲断書一通下立売通西大路町利兵衛	宝暦6	三〇〇〇
9	連歌師里村玄川筆住居修復状一紙末尾欠	三〇〇〇	
8	馬相施之次第 一卷 下川半石街門	寛保2	一五〇〇
7	下総葛飾八幡大菩薩銅鐘銘 拓本一幅	元享元	八〇〇〇
6	興福寺中行事并供養之事 一卷虫入破れ	応永6	五〇〇〇
5	丸山澹所筆 初夏之詩 一幅	三〇〇〇	
4	算木ゼイ竹共	一五〇〇	
3	物茂郷筆 詩 一幅	五〇〇〇	
2	南畝筆 書道手本 一卷	文政6	一五〇〇
1	家相松伝書 一卷 壬生村八木成器筆	文政6	一五〇〇
34	丹州桑田郡寺村長谷川謹者四柱推命書	天保13	三〇〇〇
33	短冊紫紅画 青蓮院宮宮祐 西畑起佐子画	三〇〇〇	
32	短冊生田花朝女 加茂慶庵 各一枚	三〇〇〇	
73	短冊富吉郎作 京12ヶ月11枚1枚欠 木版画	三〇〇〇	
72	短冊里村昌逸連歌師 福井藩士川地義祐93翁各枚	三〇〇〇	
71	短冊青沼光孝松江藩士 近藤彦彦画燭台之図各一枚	三〇〇〇	
70	短冊頼山陽漢詩小短冊27cm×5.4cm九条武子 各枚	三〇〇〇	
69	短冊山岡高歩号鉄舟 水田竹園笹之図 各枚	三〇〇〇	
68	短冊式部女 八田知紀 各一枚	三〇〇〇	
67	短冊含洞 宇城 各一枚	三〇〇〇	
66	短冊松廬門三卿子 江戸深川歌妓 明治中	三〇〇〇	
65	肉筆 浮世絵 一枚 初欠 大虫入 室町期	三〇〇〇	
64	真言秘法并作法 一卷 初欠 大虫入 室町期	三〇〇〇	
63	藏徳神像 一幅 初欠 大虫入 室町期	三〇〇〇	
62	光鴻老師筆古筆五言詩一幅大虚遠郎中云々八行	一五〇〇	
61	伴高溪筆 綿屋富貴繁昌讚 一幅	一五〇〇	
60	藤原家 系図 一卷 初欠 室町期	三〇〇〇	
59	於高野山真言伝授書一卷初破れ沙門真恵 応永22	五〇〇〇	
58	東奥 結城宗広公肖像 墨摺 一幅 明30	五〇〇〇	
57	西山高越寺役行者千手觀音龍王吼三弘墨摺一幅	三〇〇〇	
56	仙石謙堂筆 京風景詩 一幅	三〇〇〇	
55	黄檗 大仙和尚筆 一幅	三〇〇〇	
54	小作証書未使用紙一枚生駒郡年貢米毎年持参 明44	三〇〇〇	
53	東嶺文国書一紙洞庭岸水銀河通中有雲水随飛龍	明1013	八〇〇〇
52	地券一枚播磨加東郡久保木村 美濃石津郡 明1919	三〇〇〇	
51	雪亭女子筆 鶴と松樹之図 一幅しみに有 明1919	三〇〇〇	
50	地券一枚丹波北桑原村 大和吉野郡宇井村 明1919	三〇〇〇	
49	穆山書花挿入清明横物二字 一紙 紙本 明1919	三〇〇〇	
48	惠覺筆 三行詩 めくり一紙しみに有 三〇〇〇		
47	萩野龍章筆 業師瑞璃光如来一行一紙文化12	三〇〇〇	
46	新校正孔方圖鑑 古銭本 後刷 文化12	三〇〇〇	
45	101 米切手一枚 姫路蔵25匁 江戸末	二五〇〇	
44	102 米切手一枚 杵築蔵会所25匁 江戸末	二五〇〇	
43	103 米切手一枚 小城蔵30匁 江戸末	二五〇〇	
42	104 米切手一枚 笠間蔵河州米50匁 江戸末	二五〇〇	
41	105 米切手一枚 福地蔵播州米20匁 江戸末	二五〇〇	
40	106 米切手一枚 津輕蔵50匁 江戸末	二五〇〇	
39	107 米切手一枚 赤穂米50匁 江戸末	二五〇〇	
38	108 米切手一枚 小田原蔵60匁 江戸末	二五〇〇	
37	109 波兒芽筆 墨絵 鳥之図 一幅 江戸末	三〇〇〇	
36	110 藍染 鶴之図一枚木綿布33cm×27cm 江戸末	三〇〇〇	
35	111 稚鳳筆 正月鏡餅とねづみの図一絹書下し 江戸末	五〇〇〇	

〒606 京都市左京区一乗寺南大丸町九五

石川古本店

電話(〇七五) 七一一五四二九
振替 京都 七三三〇八九

33	名古屋市史人物編全二巻(図書刊行会)	昭56	二、〇〇〇
32	道元禪師伝研究(図書刊行会) 中世古祥道	昭54	五、〇〇〇
31	仏教芸術の研究(図書刊行会) 平子鐸嶺	昭51	七、〇〇〇
30	濟州島流入伝(図書刊行会) 金奉鉉	昭56	四、〇〇〇
29	シルクロード史研究(図書刊行会) 長澤和俊	昭58	二、〇〇〇
28	朝鮮の鬼神(図書刊行会) 総督府編	昭55	二、〇〇〇
27	鉄斎	昭44	一、五〇〇
26	富岡鉄斎と南画	昭18	二、五〇〇
25	浮世絵	昭7	一、〇〇〇
24	女性と犯罪	昭5	一、〇〇〇
23	日本民族恋愛史	昭5	一、〇〇〇
22	変態性慾心理	昭26	一、〇〇〇
21	変態性慾心理	昭5	一、〇〇〇
20	北斎漫画 全十五冊	昭54	五、〇〇〇
19	珍版我楽多草紙	昭49	三、〇〇〇
18	かみがた恋修行	昭49	三、〇〇〇
17	林美一	昭49	三、〇〇〇
16	林美一	昭49	三、〇〇〇
15	林美一	昭49	三、〇〇〇
14	林美一	昭49	三、〇〇〇
13	林美一	昭49	三、〇〇〇
12	林美一	昭49	三、〇〇〇
11	林美一	昭49	三、〇〇〇
10	林美一	昭49	三、〇〇〇
9	林美一	昭49	三、〇〇〇
8	林美一	昭49	三、〇〇〇
7	林美一	昭49	三、〇〇〇
6	林美一	昭49	三、〇〇〇
5	林美一	昭49	三、〇〇〇
4	林美一	昭49	三、〇〇〇
3	林美一	昭49	三、〇〇〇
2	林美一	昭49	三、〇〇〇
1	林美一	昭49	三、〇〇〇

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番二号
阪急古書のまち

(株)臨川書店 大阪店

電話(〇六) 三七四一三〇〇
振替 京都 八〇〇〇番

29	吉岡実詩集 思潮社	昭45	二、〇〇〇
28	清岡卓行詩集 署名入 思潮社	昭44	一、五〇〇
27	福永武彦詩集 象牙集 限506部	昭40	四、〇〇〇
26	福永武彦詩集 ある青春	昭23	三、五〇〇
25	書齋の中の嗟嘆 日夏耿之介 新書版	昭26	一、五〇〇
24	巴里幻想詩集 日夏耿之介 東京限定7	昭22	二、五〇〇
23	波羅門俳諧 日夏耿之介	昭19	五、〇〇〇
22	聴雪廬 日夏耿之介	昭15	四、五〇〇
21	波羅門俳諧 日夏耿之介	昭19	五、〇〇〇
20	波羅門俳諧 日夏耿之介	昭15	四、五〇〇
19	歌集やまひさうし 日夏耿之介 限300部 識語署名入	昭10	五、〇〇〇
18	詩集比の糧 尾崎喜八	昭8	八、〇〇〇
17	詩集東洋の春 英 美子	昭7	二、〇〇〇
16	詩集砂の枕 堀口大学 箱・背少汚レ	昭13	大15 三、〇〇〇
15	高村光太郎全詩集 新潮社	昭41	二、〇〇〇
14	珊瑚集 永井荷風	昭13	二、〇〇〇
13	詩集砂の枕 堀口大学 箱・背少汚レ	昭13	二、〇〇〇
12	オーデン詩集 深瀬基寛訳	昭43	四、五〇〇
11	デイラン・トマス詩集 松浦直己訳	昭3	二、〇〇〇
10	フランシス・ジャム詩抄 堀口大学訳	昭11	一、八〇〇
9	フラリス・ジャム 夜の歌	昭8	一、五〇〇
8	スタイン抄 春山行夫訳 小型本	昭47	二、五〇〇
7	定本ランボー詩集 小林秀雄訳 署名入	昭12	一、五〇〇
6	ランボーの手紙 高木佑一郎 版画荘版	昭16	八、〇〇〇
5	ボードレール 悪の華 佐藤朔訳	昭49	三、〇〇〇
4	ボードレール 火の心 赤裸の心 限150部	昭2	二、〇〇〇
3	アララン 詩集ジ・アニーの歌草 外山訳	昭37	二、五〇〇
2	マラルメ詩集 加藤美雄	昭36	二、〇〇〇
1	ヴィイオン遺言集 鈴木信太郎訳 限定版	昭36	二、〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通今出川上ル
同志社正門前

沢田書店

電話(〇七五) 四五一〇五二三
振替 京都 三十一九一四八

33	墨清太郎全集七十年の歩み 尾崎久弥他 非売品	昭35	二、〇〇〇
32	黙庵詩鈔 住谷天来 非売品	昭16	一、五〇〇
31	新興ロシアの教育 山下徳治 鐵塔書院	昭4	一、五〇〇
30	歌集驚 三宅勇三 創元選書	昭15	一、〇〇〇
29	小説海軍 岩田豊雄 朝日新聞社	昭18	一、〇〇〇
28	増補国史挿話全集(逸話篇) 白井喬二 春秋社	昭9	一、〇〇〇
27	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
26	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
25	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
24	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
23	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
22	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
21	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
20	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
19	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
18	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
17	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
16	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
15	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
14	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
13	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
12	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
11	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
10	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
9	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
8	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
7	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
6	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
5	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
4	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
3	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
2	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇
1	水上海太郎全集四 大阪篇 岩波書店	昭15	一、〇〇〇



賢顕牡丹華遊覧 周延画 3枚続 ￥45,000



女礼式裁縫之図 周延画 3枚続 ￥40,000



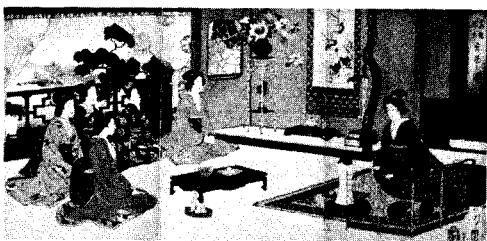
吉野皇居月見御庭之図 周延画 3枚続 ￥45,000



男児池上に小舟を浮む 周延画 3枚続 ￥48,000



女礼式之図 国輝画 3枚続 ￥35,000



高樓迎客煎茶之図 年方面 3枚続 ￥45,000



佳人雪見之清茶 延一画 3枚続 ￥45,000



貴婦人御茶会 年方面 3枚続 ￥45,000



女礼式書画之図 周延画 3枚続 ￥38,000

〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入

(京都大学前)

井上書店

電話(〇七五) 七八一三三二
振替 京都 七二二四九七

1	エッセイ集 登壇 初版	朝日新聞社	昭29	六〇〇〇
2	エッセイ集 登壇 初版	朝日新聞社	昭29	六〇〇〇
3	エッセイ集 登壇 初版	朝日新聞社	昭29	六〇〇〇
4	エッセイ集 登壇 初版	朝日新聞社	昭29	六〇〇〇
5	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
6	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
7	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
8	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
9	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
10	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
11	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
12	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
13	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
14	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
15	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
16	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
17	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
18	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
19	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
20	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
21	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
22	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
23	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
24	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
25	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
26	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
27	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
28	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
29	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
30	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
31	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
32	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇
33	星と嵐	白水社	昭40	二、〇〇〇

〒602 京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル

(京都大学前)

萩書房

電話(〇七五) 四三一三三二
振替 京都 八一四三六

1	教育科学辞典	文部省	昭27	三、五〇〇
2	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
3	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
4	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
5	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
6	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
7	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
8	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
9	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
10	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
11	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
12	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
13	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
14	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
15	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
16	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
17	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
18	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
19	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
20	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
21	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
22	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
23	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
24	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
25	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
26	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
27	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
28	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
29	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
30	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
31	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
32	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇
33	現代教育史	朝倉書店	昭27	三、五〇〇

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺

(京都大学前)

三密堂書店

電話(〇七五) 三五一一九六三
振替 京都 四一三四七一

1	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
2	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
3	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
4	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
5	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
6	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
7	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
8	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
9	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
10	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
11	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
12	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
13	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
14	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
15	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
16	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
17	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
18	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
19	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
20	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
21	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
22	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
23	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
24	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
25	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
26	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
27	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
28	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
29	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
30	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
31	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
32	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇
33	易学活断	天龍閣居士編	一書堂	明43	三、〇〇〇

キク才書店

電話(〇七五)二三一一七六三四
振替 京都 八一七六四〇〒604 京都市中京区河原町通三条上ル
(朝日会館前)

郷土史・誌特集

- | | | |
|-----|----------------------------|-------|
| 1 | 郷土史の研究 雄山閣郷土史研究講座 合本五冊 | 昭三〇〇〇 |
| 2 | 郷土史研究事典 復刻版 歴史図書社 | 昭五二 |
| 3 | 北海道要覧 北海道庁編 | 大七 |
| 4 | 札文町史 | 昭四七 |
| 5 | 羅臼町史 | 昭四八 |
| 6 | 松前町史 史料編(北海道) 三冊揃 第一印刷 | 昭四九 |
| 7 | 小牟田町史 (宮城) 三冊 | 昭四九 |
| 8 | 伊香保誌 岡部福蔵 桐生倶楽部 | 昭四五 |
| 9 | 桐生地方史 二冊 | 昭三〇〇〇 |
| 10 | 埼玉県誌 六冊揃 | 昭三〇〇〇 |
| 11 | 越谷市史 東京市役所蔵版 二冊 | 昭三〇〇〇 |
| 12 | 新修世田谷区史 付録共三冊揃 | 昭三〇〇〇 |
| 13 | 台東区史 二冊 赤線有 | 昭三〇〇〇 |
| 14 | 三鷹市史 岡村孝三郎 | 昭三〇〇〇 |
| 15 | 東京新聞の今昔 環水堂 | 昭三〇〇〇 |
| 16 | 上野国志 毛呂権蔵 歴史図書社 | 昭三〇〇〇 |
| 17 | 神奈川県史概説 上巻 近世(一) | 昭三〇〇〇 |
| 18 | 神奈川県史 通史編(二) 近世(一) | 昭三〇〇〇 |
| 19 | 長野県史 考古資料編(主要遺跡) | 昭三〇〇〇 |
| 20 | 信濃町誌 森田平次 三巻揃 歴史図書社 | 昭三〇〇〇 |
| 21 | 金沢古蹟志 四冊揃 復刻版 東洋書院 | 昭三〇〇〇 |
| 22 | 片山津町史(石川) 復刻版 三冊 | 昭三〇〇〇 |
| 23 | 福井県史(岐阜) 五冊揃 三冊 | 昭三〇〇〇 |
| 24 | 高山市史(岐阜) 三冊 三冊 | 昭三〇〇〇 |
| 25 | 羽島市史(岐阜) 三冊 三冊 | 昭三〇〇〇 |
| 26 | 神岡町史(愛知) 三冊 三冊 | 昭三〇〇〇 |
| 27 | 安城市史(愛知) 三冊 三冊 | 昭三〇〇〇 |
| 28 | 尾参郷土史 小菅康他編 三冊揃 歴史図書社 | 昭三〇〇〇 |
| 29 | 三重県風土史 大森孤舟 復刻版 歴史図書社 | 昭三〇〇〇 |
| 30 | 河芸郡史(三重) 中林楓水 復刻版 昭三〇〇〇 | 昭三〇〇〇 |
| 31 | 尾参郷土史 小菅康他編 三冊揃 歴史図書社 | 昭三〇〇〇 |
| 32 | 河芸郡史(三重) 中林楓水 復刻版 昭三〇〇〇 | 昭三〇〇〇 |
| 33 | 桑名市史 本編(二重) | 昭三〇〇〇 |
| 34 | 尾鷲市史(三重) 二冊 | 昭三〇〇〇 |
| 35 | 新編伊賀地誌 中野銀郎 復刻版 歴史図書社 | 昭三〇〇〇 |
| 36 | 校定頭註 近江奥地志略 寒川辰清編 歴史図書社 | 昭三〇〇〇 |
| 37 | 近江蒲生郡誌 郡役所 十冊揃 | 昭三〇〇〇 |
| 38 | 東浅井郡志 沿革誌 三冊揃 日本資料刊行会 | 昭三〇〇〇 |
| 39 | 野洲郡志 上巻 二冊 | 昭三〇〇〇 |
| 40 | 近江神崎郡志稿 二冊 | 昭三〇〇〇 |
| 41 | 大津市史 三冊 | 昭三〇〇〇 |
| 42 | 大津市史 第一巻 市教育会編 淡文社 | 昭三〇〇〇 |
| 43 | 草津市史 通史篇 光彰社 | 昭三〇〇〇 |
| 44 | 湖東町史 上巻 通史篇 光彰社 | 昭三〇〇〇 |
| 45 | 新修京都叢書 二十冊揃 各巻地図付 学芸書林 | 昭三〇〇〇 |
| 46 | 京都府史 編年綱目第一・二・三冊 京都府役所 | 昭三〇〇〇 |
| 47 | 平安通史 京都市参事会編 復刻版 新人物往來社 | 昭三〇〇〇 |
| 48 | 平安通史 京都市参事会編 復刻版 新人物往來社 | 昭三〇〇〇 |
| 49 | 京都府民生活史 他三篇 京都府金庫五十周年記念出版 | 昭三〇〇〇 |
| 50 | 京都府民生活史 他三篇 京都府金庫五十周年記念出版 | 昭三〇〇〇 |
| 51 | 長岡京内と外 中山修一 日本資料刊行会 | 昭三〇〇〇 |
| 52 | 舞鶴市史 各説編 上巻 | 昭三〇〇〇 |
| 53 | 綾部市史 上巻 | 昭三〇〇〇 |
| 54 | 京都府漁業の歴史 岩崎英精 京都府漁業協同組合連合会 | 昭三〇〇〇 |
| 55 | 大阪府全誌 井上正雄 五冊揃 歴史図書社 | 昭三〇〇〇 |
| 56 | 西摂大観 仲彦三郎編 三冊大判和装 明緯社 | 昭三〇〇〇 |
| 57 | 郷土研究 上方十一巻 合本六冊 復刻版 新和出版 | 昭三〇〇〇 |
| 58 | 大阪の研究 宮本又次 五冊揃 清文堂出版 | 昭三〇〇〇 |
| 59 | 上方文化 創刊五号 大阪文化研究所 五冊合本 | 昭三〇〇〇 |
| 60 | 難波大阪 三冊揃 帳入 講談社 | 昭三〇〇〇 |
| 61 | 西成区史 西成区市域編入四十周年 講談社 | 昭三〇〇〇 |
| 62 | 中之島誌 復刻版 臨川書店 | 昭三〇〇〇 |
| 63 | 吹田市史 第二巻、第四・八巻 六冊 | 昭三〇〇〇 |
| 64 | 箕面市史 八巻揃 | 昭三〇〇〇 |
| 65 | 箕面市行政史料集(一) | 昭三〇〇〇 |
| 66 | 和泉市史 第一・二巻 二冊 復刻版 | 昭三〇〇〇 |
| 67 | 堺市史 続編第五巻(史料・民家調査報告) | 昭三〇〇〇 |
| 68 | 河内市史 第一・二巻 二冊 復刻版 | 昭三〇〇〇 |
| 69 | 河内市史 第一・二巻 二冊 復刻版 | 昭三〇〇〇 |
| 70 | 河内市史 第一・二巻 二冊 復刻版 | 昭三〇〇〇 |
| 71 | 河内市史 第一・二巻 二冊 復刻版 | 昭三〇〇〇 |
| 72 | 河南町誌(大阪) | 昭三〇〇〇 |
| 73 | 太子町誌(大阪) | 昭三〇〇〇 |
| 74 | 千早赤坂村誌 本編資料編付 復刻版 中央出版社 | 昭三〇〇〇 |
| 75 | 加古郡誌(兵庫) 復刻版 名著出版 | 昭三〇〇〇 |
| 76 | 姫路市史 船知慧 中央出版社 | 昭三〇〇〇 |
| 77 | 姫路市史 船知慧 中央出版社 | 昭三〇〇〇 |
| 78 | 姫路市史 船知慧 中央出版社 | 昭三〇〇〇 |
| 79 | 明石名勝古事談 橋本海閑 合本復刻版 五典書院 | 昭三〇〇〇 |
| 80 | 宝塚市史 第一・三巻 通史篇 三巻揃 | 昭三〇〇〇 |
| 81 | 瀬戸内海論 小西和 福原潜次郎 | 昭三〇〇〇 |
| 82 | 多紀郷土史話(兵庫) 福原潜次郎 | 昭三〇〇〇 |
| 83 | 青垣町誌(兵庫) | 昭三〇〇〇 |
| 84 | 大和町市史 正統資料編(奈良) 三冊 | 昭三〇〇〇 |
| 85 | 平城町市史(奈良) | 昭三〇〇〇 |
| 86 | 河合町市史(奈良) | 昭三〇〇〇 |
| 87 | 上牧町市史(奈良) | 昭三〇〇〇 |
| 88 | 常麻町市史 続編 當麻史他史料(奈良) | 昭三〇〇〇 |
| 89 | 吉井町市史(奈良) | 昭三〇〇〇 |
| 90 | 三郷町市史(奈良) | 昭三〇〇〇 |
| 91 | 葛上村市史(奈良) | 昭三〇〇〇 |
| 92 | 御杖村市史(奈良) | 昭三〇〇〇 |
| 93 | 阿哲郡誌(岡山) 二冊・復刻版 | 昭三〇〇〇 |
| 94 | 島根県史要 藤本充安 | 昭三〇〇〇 |
| 95 | 島根県史要 藤本充安 | 昭三〇〇〇 |
| 96 | 邑智郡誌(島根) 森脇太一 | 昭三〇〇〇 |
| 97 | 浜田市誌(島根) 二冊 | 昭三〇〇〇 |
| 98 | 下関市史 原始・中世・藩制・明治前期 二冊 | 昭三〇〇〇 |
| 99 | 津和野町史 第一・二巻(山口) 二冊 | 昭三〇〇〇 |
| 100 | 山口県政史 二冊 山口県文書館 | 昭三〇〇〇 |
| 101 | 山口県政史 二冊 山口県文書館 | 昭三〇〇〇 |
| 102 | 佐賀市史 五冊揃 復刻版 名著出版 | 昭三〇〇〇 |
| 103 | 佐賀市史 五冊揃 復刻版 名著出版 | 昭三〇〇〇 |
| 104 | 長崎市史 風俗編 | 昭三〇〇〇 |
| 105 | 長崎市史 風俗編 | 昭三〇〇〇 |
| 106 | 大分市史 中史編纂委員会編 二冊 函 双林社 | 昭三〇〇〇 |
| 107 | 大分市史 中史編纂委員会編 二冊 函 双林社 | 昭三〇〇〇 |
| 108 | 別府市史 復刻版 文献出版社 | 昭三〇〇〇 |
| 109 | 玖珠郡史(大分) 復刻版 文献出版社 | 昭三〇〇〇 |
| 110 | 那覇市史 通史篇第一巻 | 昭三〇〇〇 |

〒604 京都市中京区河原町通六角下ル

電話(〇七五)二三二一五八八
振替 京都 三三二六

1	漢詩大観	全5	18	岩波書店	昭和49	六〇〇	40	ボオ研究	八木敏雄	昭和51	一、五〇〇
2	中国詩人選集	全18	17	岩波書店	昭和32	三〇〇	41	季刊新詩論②	ボオ研究特輯号	昭和8	一、八〇〇
3	岩波講座 世界文学	全15回	16	岩波書店	昭和32	三〇〇	42	純小説八雲読本	吉田一穂	昭和17	一、八〇〇
4	3 岩波詩集 大正文学	全26	17	平反社	昭和33	六〇〇	43	神国日本	小泉八雲	昭和17	四〇〇
5	近代劇全集	全44	18	第一書房	昭和22	四〇〇	44	日本警見記	L・ハーン	昭和9	六八〇
6	ロシア文学全集	全55	19	みすず書房	昭和31	三〇〇	45	バーナード・ショーの劇	花園兼定訳	昭和8	一、三〇〇
7	エロシエンコ全集	全3	20	みすず書房	昭和34	三〇〇	46	バーナード・ショー	大河内俊雄	昭和8	一、四〇〇
8	カフカ全集	全6	21	新潮社	昭和47	二〇〇	47	ボイス短篇選集	中村保男	昭和11	二、四〇〇
9	カミュ全集	全10	22	新潮社	昭和48	二〇〇	48	モームの思い出	龍口直太郎訳	昭和11	二、〇〇〇
10	小泉八雲全集	全18	23	第一書房	昭和50	二、〇〇〇	49	モームの世界	ジョナス	昭和42	二、五〇〇
11	ジイド全集	全16	24	新潮社	昭和25	五〇〇	50	ホプキンスのころ	安田章一郎	昭和54	三、〇〇〇
12	シェイクスピア全集	全40	25	坪内逍遙訳	昭和8	二、〇〇〇	51	スペンダー評論集	福田・徳永	昭和43	二、四〇〇
13	シェイクスピア全集	全18	26	新潮社	昭和34	二、〇〇〇	52	世界の中の世界	高城樫秀	昭和34	五、〇〇〇
14	ツヴァイク全集	全19	27	みすず書房	昭和36	三〇〇	53	創造的要素	深瀬基寛	昭和44	三、八〇〇
15	ドストエフスキ小説全集	全10	28	筑摩書房	昭和51	三、〇〇〇	54	一筆の線ができるまで	徳永暢三	昭和55	二、〇〇〇
16	ネルヴガ全集	全3	29	筑摩書房	昭和51	三、〇〇〇	55	緑の華詩歌	デラント・マスの詩	昭和55	一、四〇〇
17	ハイン全詩集	全5	30	角川書店	昭和47	二、〇〇〇	56	危険なエンジェル	(トマス論)	昭和42	一、八〇〇
18	バートン版千一夜物語	全8	31	河出	昭和48	八〇〇	57	評伝米田文学大観	柳田 泉	昭和23	四、五〇〇
19	フリップ全集	全3	32	白水社	昭和4	一、五〇〇	58	わが空想よばば	ホセ・マリア	昭和23	七、〇〇〇
20	マンズフィールド全集	全3	33	黒沢茂	昭和41	八〇〇	59	ホセ・マリア詩集	有島武郎	昭和13	二、〇〇〇
21	トーマス・ミラー全集	全13	34	新潮社	昭和46	六〇〇	60	ヘンリー・ミラーとその世界	簡井正明	昭和48	二、〇〇〇
22	ヘンリー・ミラー全集	全13	35	新潮社	昭和46	六〇〇	61	天才と肉欲	メイラー	昭和48	二、〇〇〇
23	ノーマン・メイラー全集	全8	36	新潮社	昭和44	二、〇〇〇	62	フランス文学辞典	東大フラン	昭和55	三、八〇〇
24	モンテニユ全集	全4	37	白水社	昭和32	二、〇〇〇	63	現代フランス文学の展望	ビョリ	昭和29	二、〇〇〇
25	ロマン・ロラン全集	既刊41	38	みすず	昭和54	六、〇〇〇	64	文学の宿命	デュアメル	昭和15	二、五〇〇
26	現代英文学講話	小日向定次郎	39	大宮正仁	昭和9	二、五〇〇	65	フランス・ユナニスムの成立	渡辺一夫	昭和33	四、〇〇〇
27	近代唯美思潮研究	益田道三	40	山宮 允	昭和16	四、八〇〇	66	フランス・ルネサンス文芸思潮序説	渡辺一夫	昭和44	二、〇〇〇
28	書物と著者	大谷 正	41	大宮 允	昭和16	六、五〇〇	67	フランス・ルネサンスの人々	渡辺一夫	昭和42	四、八〇〇
29	標註偉人論	大宅正仁	42	大宅正仁	昭和24	三、〇〇〇	68	フランス文芸思潮序説	渡辺一夫	昭和41	三、八〇〇
30	文学と性的表現	カルヴァン	43	大宅正仁	昭和6	四、〇〇〇	69	フランス文学概説	渡辺一夫	昭和13	三、五〇〇
31	英米近代劇一幕物十種	宮森麻太郎	44	大宅正仁	昭和6	三、〇〇〇	70	世間噺 後宮異聞	渡辺一夫	昭和50	五、〇〇〇
32	演劇原論	ハミルトン	45	古川義治訳	昭和15	六、八〇〇	71	世間噺 戦国の公妃	渡辺一夫	昭和48	四、〇〇〇
33	英国愛蘭近代劇精髓	菊地寛・山本修二	46	大宅正仁	昭和14	五、〇〇〇	72	丸山和馬遺文集	市川禮子	昭和12	二、〇〇〇
79	バルザック	アラン	79	小西茂也	昭和15	二、五〇〇					
80	ジョルジュ・サンド評伝	アラン	80	小西茂也	昭和15	二、五〇〇					
81	ボードレールのエマニユエル	長塚隆二	81	山崎嘉弘	昭和52	三、〇〇〇					
82	ボードレールの生涯	山村露巳	82	山崎嘉弘	昭和48	二、〇〇〇					
83	ヴェルレーヌ研究	堀口大俊	83	堀口大俊	昭和50	四、八〇〇					
84	アナトール・フランス	内山 敏	84	内山 敏	昭和24	一、五〇〇					
85	現代史 全3冊	水野成夫他	85	水野成夫他	昭和26	四、〇〇〇					
86	神々は渴く	水野成夫	86	水野成夫	昭和26	二、五〇〇					
87	ニルスト・ボナールの罪	伊吹武彦	87	伊吹武彦	昭和25	三、〇〇〇					
88	ブルースト・ブロンデル	吉倉・藤井	88	吉倉・藤井	昭和35	六、八〇〇					
89	ブルースト・印象と隠喩	保刈瑞穂	89	保刈瑞穂	昭和37	一、八〇〇					
90	内面の作家	梶野吉郎他	90	梶野吉郎他	昭和49	二、〇〇〇					
91	信仰についての談話	アラン	91	松浪信三郎	昭和17	二、〇〇〇					
92	精神と情熱に関する81章	小林秀雄	92	小林秀雄	昭和11	二、五〇〇					
93	内面の記録 正統	モリアック	93	モリアック	昭和41	六、五〇〇					
94	現実世界 全5冊	アラゴン	94	関 義	昭和31	八、五〇〇					
95	天の手袋(ラディゲの評伝)	江口 清	95	江口 清	昭和44	二、五〇〇					
96	サルトル文学論	小島雅正	96	小島雅正	昭和32	二、四〇〇					
97	サルトル マルクス主義議論	白井健三郎	97	白井健三郎	昭和30	二、五〇〇					
98	サルトル論	伊吹武彦	98	伊吹武彦	昭和24	一、五〇〇					
99	伝記サルトル	権 寧訳	99	権 寧訳	昭和51	四、八〇〇					
100	別れの儀式	ボーヴォワール	100	朝吹三吉	昭和58	三、六〇〇					
101	トリエール・シルダン	美田 豊	101	美田 豊	昭和31	二、〇〇〇					
102	ジョルジュ・サンド	モロワ	102	河盛 島田	昭和33	二、五〇〇					
103	孤獨家 アンブローズ・ピアス	西川正身	103	西川正身	昭和50	二、五〇〇					
104	サント・ブーヴ	世界大思想全集	104	鈴木信太郎	昭和30	二、四〇〇					
105	虚の集點	鈴木信太郎	105	鈴木信太郎	昭和45	二、〇〇〇					
106	阿蘭陀まんざい	鈴木信太郎	106	鈴木信太郎	昭和29	二、〇〇〇					
107	胡桃の中の世界	溢澤龍彦	107	溢澤龍彦	昭和49	二、〇〇〇					
108	神聖受胎	溢澤龍彦	108	溢澤龍彦	昭和45	一、八〇〇					
109	サド候爵の生涯	溢澤龍彦	109	溢澤龍彦	昭和42	一、八〇〇					
110	溢澤龍彦の世界	別冊新評	110	別冊新評	昭和48	一、八〇〇					
111	偏愛的作家論	溢澤龍彦	111	溢澤龍彦	昭和53	二、五〇〇					

定本 湛然居士文集譯

飯田利行訳著／蒙古帝国チンギス汗、オゴタイ汗に仕えた『草原の名宰相』。耶律楚材は、稀代の禪者として湛然居士の号を賜わった。離都幾千里の軍幕の中で平安を希求する真情を吐露したこの救国の大詩人の詩文集を書下し、現代語訳を添える。 テキスト付・18000円

畔上樸仙禪師遺稿

飯田利行編／第三代管長、総持寺独住第二世、畔上樸仙禪師は、混乱退廃の明治期に宗門の行く道を示し、未来への指標を伝え遺した。本書は禪師の日記・書簡等を駆使、香語・詩偈などの遺稿を整理し、書下し文と注記を添えて編んだ。 16000円

仏教の教育思想

朴先栄著／韓国の伝統を吟味し再解釈することから出発した著者は、現下の混迷する教育的苦悩に対し、人間形成と救済の本源的使命を仏教の根本教義にもとめ、教育作用の本質を現代教師の菩薩行に志向する。仏教思想の入門の書。韓国教育学会学術賞受賞・4800円

仏教教育入門

斎藤昭俊著／仏教教育の原理が未だ体系化されていないことを憂い、意欲的にその概説化・理論化を試みた書。仏教教育史に関する多くの業績を踏まえた著者が、仏教教育関係に携わる人々を対象にわかりやすく解説した、一般の仏教入門書としても優れた好著。 2200円

*小社の書籍は注文制です。書店にご注文下さい。 国書刊行会 〒170 東京都豊島区巢鴨3-5-18 電話03(917)8287

名著普及会

日本大辞書

山田美妙 著 二八、〇〇〇円

辞書史上異色の独創的大辞書を完全覆刻。

日本語源

賀茂百樹 著 二〇、〇〇〇円

基礎語彙約七〇〇語を収録した日本語のルーツ事典。

源典東雅

新井白石 著 一四、〇〇〇円

理論家白石が明確な言語観にもとづいて著した語源辞典。

漢照いろは辞典

高橋五郎 著 二五、〇〇〇円

漢対照いろは順で、引きやすさを重視した百科事典的辞典。

戯・小説 近世作家大観

鈴木行三編 松下大三郎 監修 武田祐吉

群書索引

全三冊 物見高見 物見高見 共編

江戸時代初期から近松まで、近世を演出した戯曲家・小説家一九〇余人の伝記・著作家に関する資料を網羅。多角的にとらえるため、江戸時代だけでなく、明治・大正期までの資料を博搜。出典・根拠を明記。

菊判・上製

定価 一一、〇〇〇円

国語・国文・国史を研究する上で、必須と思われる故事・古事物についての五万項目余を記載。山川草木・鳥獸虫魚・神仏・衣食住等々と文化・生活全般に渡る収録項目が五〇音順配列を採り、検索に便利。

A5判・上製・函入

定価 三〇、〇〇〇円

対訳 源氏物語講話

全六巻 島津久基 著 秋山虔 解題

厳しい学究的態度と天性の芸術的質が見事に調和した著者の自由闊達な文章により、生硬な学術書の域を超えた幅と奥行を持つ量生の書。本文・口語訳・語義に加え、徹底した訳評・考証、豊富な挿図入り。

A5判・上製・函入

定価 三三、〇〇〇円

増註 源氏物語湖月抄

全3冊 北村季吟 著 有川武彦 校訂 猪熊夏樹 補注 三谷栄一 増補

花鳥余情、源注拾遺などをはじめ、諸書の注釈を総合した「源氏」古注の集大成、明治・現代の諸注釈書との頁照合ができる便利な対照表が新たに付き、利用価値倍増。源氏物語研究に欠かせない基本図書。

四六判・上製・函入

定価 三四、〇〇〇円

ご注文は直接当会へ!!

〒152 東京都目黒区平町1-16-6
TEL 03(724)8031

1985年7月1日-創刊

総合学術雑誌

鴨東論壇

● 編集：鴨東論壇会 / A5判・68頁 / 定価100円(送料別)
● (購読) 希望の方は小社内鴨東論壇会までお申し込み下さい。

● 創刊号内容 係結の終焉 安田章 / 頼阿の「古今集注」 追尋島井千佳子 / 蘇村と漢詩壇 日野龍夫 / 旭松下露草「謡曲参考抄」と宝生立園伊藤正義 / ヨーロッパに思う「源氏物語」の文化片桐洋一 / 雑事 雑感 塚原鉄雄

● 詳細は小社(本社・支店・営業部まで)照会下さい。

兵庫美囊郡誌
加古郡誌
増訂印南郡誌
丹波氷上郡志
校補但馬考

本文一五〇〇頁・折込附図五枚
全一冊 定価一九、〇〇〇円

本文五四〇頁・折込附図一枚
全一冊 定価八、〇〇〇円

本文一〇六頁・折込附図四枚
全二冊 定価一六、〇〇〇円

本文一五三四頁・折込附図六枚
全二冊 定価二五、〇〇〇円

本文九五六頁
全一冊 定価二一、〇〇〇円

最新刊
兵庫県郷土誌叢刊 第一期

全5巻7冊 セット定価七五、〇〇〇円



臨川書店

本社 〒606 京都市左京区今出川通川端東入50M
大阪店 〒530 大阪府北区芝田町1丁目6番2号 阪急古書のまち

TEL (075) 721-7111
TEL (06) 374-1300

好評発売中

近刊

朝鮮医事年表 八月上旬刊

三木栄編著
〔本書の特色〕
※ 朝鮮の医学・医療・疾病関係の事項を、原典に依拠し、有史以来一九四五
年まで収めた。朝鮮国内の医事にとどまらず、朝鮮と日本・中国・西洋との医事交流につ
いても詳細に記した。
※ 各事項の終りにはその原典名をあげ、典拠を明らかにした。
※ 年次は西暦を基本とし、各年次に朝鮮・中国・日本の年号を併記した。

図説万国博覧会史 1851-1942

吉田光邦編
〔内容目次〕総説／会場鳥瞰／会場平面図／群集／回遊する人々／水晶宮とエ
ッフェル塔／万国博と産業技術／パビリオン／イコノロジー／日本イメー
ジの演出／日本館のエキゾチズム／政治と博覧会／年表／他
口絵カラー一二点・本文モノクロ二九〇点収録

大坂医師番付集成

中野操編 番付四十五種(原寸及び縮小複製)和紙使用オフセット製版印
刷／別冊索引・解説／B6判・二二〇頁／紙入り 定価一五、〇〇〇円
半世紀に及ぶ中野操博士の医学史・蘭学史研究の間に蒐集した寛政期から
明治に至る医師番付を中心に現在判明している番付の全てを影印版で再現。
別冊として、詳細な人名索引及び解説を付す。

原田伴彦論集 全五巻

好評配本中

第1巻 都市発達史研究

〔解説〕脇田晴子

第2巻 都市形態史研究

〔解説〕矢守一彦

第3巻 都市社会史研究

〔解説〕脇田修

〔収録論文〕戦国時代前後の諏訪門前部聚落／近世門前町研究序説／近世の門前町と寺町／近世城下町について／近世在郷町の歴史的展開／近世の港町／ほか五篇
〔収録論文〕十六世紀の自由都市／中世都市の自治的共同組織について／封建都市の自治組織と中世商業の展開過程／領主権力と町民武装／近世都市と租税／ほか六篇
〔続刊〕部落差別史研究／文化芸能史研究

本社 京都市左京区田中関田町 2-7
〒606 (075) 751-1781

思文閣出版

支社 東京都千代田区三崎町 2-20
〒101 (03) 263-6348